<魅力ある海岸景観の創出>

大阪湾沿岸は、関西国際空港や神戸港、大阪港、堺泉北港など、諸外国との交流の接 点が形成されており、多くの観光客で賑わいをみせているほか、沿岸域の開発などによ り、海岸が日常生活空間の一部となりつつある。また、港湾整備においても魅力ある港 景観づくりが進められているところであり、今後の海岸保全施設の整備ではこうした状 況に配慮して周辺の良好な景観との調和を図る。さらに、海岸や港に残る稀少な歴史資 源を活かし、背後地に残る歴史や文化遺産などと関連づけることにより、海辺の変遷を 認識できるような配慮を行うなど、地域の行事・文化などを継承し、訪れる人々や地域 の住民が歴史・文化を体験できるような海岸づくりを進める。

市街地からの景観では、背後の再開発事業など関連事業にも配慮し、面的防護方式を取り入れるなど、水辺の見える眺望や港の施設などと一体となった遠景および、近隣住民が心地よく散策できる近景を演出することを心がける。また、海岸らしい開放性を確保し、緑化修景を取り入れるなど、心理的な印象にも配慮したデザインの導入を図る。都市部と接しているところでは、周囲に威圧感や閉鎖感などを与えないよう、構造物の素材や色彩などの工夫に努める。

<海岸環境の保全に関する地域との連携>

我国の近海では、時折、船舶などからの油流出など突発的な事故が発生している。このような沿岸環境の災害時においては、多くの地域住民やボランティアの参加・協力により環境の回復が図られてきた。今後、こうした突発的な災害に対して、地域住民やボランティアの参加・協力、地域ごとの海岸環境の情報収集・整理・分析、その結果の提供・公開を通じた関係者間の情報の共有化により、安全で速やかに対応できるように、地域住民と関係機関が連携した地域協力体制づくりを検討していく。

環境の維持については、海岸の愛護を促すため「海の自然学校」などの実体験による環境教育を進めながら、地域住民との連携をより緊密に行っていくとともに、愛護活動の支援を進め、より適切な管理体制の確立を図る。

さらに、海岸の良好な環境を損なうごみや汚物の不法投棄に対しては、マナー向上のための啓発活動を進め、美しい海辺づくりに努めていく。

変更なし

<魅力ある海岸景観の創出>

大阪湾沿岸は、関西国際空港や神戸港、大阪港、堺泉北港など、諸外国との交流の接点が形成されており、多くの観光客で賑わいをみせているほか、沿岸域の開発などにより、海岸が日常生活空間の一部となりつつある。また、港湾整備においても魅力ある港景観づくりが進められているところであり、今後の海岸保全施設の整備ではこうした状況に配慮して周辺の良好な景観との調和を図る。さらに、海岸や港に残る稀少な歴史資源を活かし、背後地に残る歴史や文化遺産などと関連づけることにより、海辺の変遷を認識できるような配慮を行うなど、地域の行事・文化などを継承し、訪れる人々や地域の住民が歴史・文化を体験できるような海岸づくりを進める。

市街地からの景観では、背後の再開発事業など関連事業にも配慮し、面的防護方式を取り入れるなど、水辺の見える眺望や港の施設などと一体となった遠景および、近隣住民が心地よく散策できる近景を演出することを心がける。また、海岸らしい開放性を確保し、緑化修景を取り入れるなど、心理的な印象にも配慮したデザインの導入を図る。都市部と接しているところでは、周囲に威圧感や閉鎖感などを与えないよう、構造物の素材や色彩などの工夫に努める。

<海岸環境の保全に関する地域との連携>

我国の近海では、時折、船舶などからの油流出など突発的な事故が発生している。このような沿岸環境の災害時においては、多くの地域住民やボランティアの参加・協力により環境の回復が図られてきた。今後、こうした突発的な災害に対して、地域住民やボランティアの参加・協力、地域ごとの海岸環境の情報収集・整理・分析、その結果の提供・公開を通じた関係者間の情報の共有化により、安全で速やかに対応できるように、地域住民と関係機関が連携した地域協力体制づくりを検討していく。

環境の維持については、海岸の愛護を促すため「海の自然学校」などの実体験による環境教育を進めながら、地域住民との連携をより緊密に行っていくとともに、愛護活動の支援を進め、より適切な管理体制の確立を図る。

さらに、海岸の良好な環境を損なうごみや汚物の不法投棄に対しては、マナー向上のための啓発活動を進め、美しい海辺づくりに努めていく。

4. 海岸における公衆の適正な利用に関する事項

4-1 公衆の適正な利用を促進するための施策

<多様な利用要請に応える海岸づくり>

大阪湾沿岸は、一般公衆利用の他に都市、産業、港湾、漁業など多様な利用が図られており、海岸利用の要請も多様化している。また、地域の海岸は、歴史・文化を継承しつつ、地域になじんだ文化活動の場として、行事や祭り・学習などに利用され親しまれてきている。大阪湾沿岸の稀少な砂浜は、海水浴だけでなく、年間を通じ多くの人々に利用され、貴重な海とのふれあいの場となっている。

海岸の整備を進めるにあたっては、立地特性やそれぞれの機能との調和を図りつつ、 今後さらに増大し高度化、多様化していくであろう一般公衆の多様な利用ニーズに応え る海岸づくりを目指す。この際、良好な自然環境を損なうことのないよう、環境保全と 利用促進のバランスに配慮していく。また、このような多様化、通年化する利用に即し、 利用者の安全性に配慮した施設整備と管理を行う。

今後の海岸利用の要請に応えるためには、地域の行事や祭りなどに活用でき環境学習 や体験活動のできる海岸や、ヨットやサーフィン、釣りなどのスポーツ・レジャー利用 や、散策、ジョギングなどの日常的で身近な利用を楽しむことができる海岸を創出して いくものとする。

近年、沿岸域の再開発事業などにより、大規模集客拠点への利用転換が進み、人々が 海岸へ接する機会が増えていることから、海岸整備においても、周辺における他事業と の調整を図りつつ、親水性を考慮した活力とにぎわいのある海岸づくりを進めていく。

都市に近く、平穏な内水面を有する海岸では、様々なイベントなどの利用やボート遊び、やすらぎや憩いの場としての活用が期待されることから、今後さらに、地域の活動と一体となった利用を進めていくこととする。

<海岸利用の利便性の向上>

大阪湾沿岸は、背後に利用密度の高い市街地が近接しているが、人々に開放されていない海岸が多く、人々を海辺から遠ざける一因となっている。海岸をより身近なものとしていくためには、安全で快適なアクセス路の確保や幹線道路から海岸にアクセスする際に容易に識別できる標識などの設置、海岸保全施設のバリアフリー化を進めていくことが重要であり、将来的にはユニバーサルデザインの実現を目指し、誰でも日常生活のなかで海岸に近づくことができるよう、関係機関が連携した総合的な対策を検討してい

変更なし

4. 海岸における公衆の適正な利用に関する事項

4-1 公衆の適正な利用を促進するための施策

<多様な利用要請に応える海岸づくり>

大阪湾沿岸は、一般公衆利用の他に都市、産業、港湾、漁業など多様な利用が図られており、海岸利用の要請も多様化している。また、地域の海岸は、歴史・文化を継承しつつ、地域になじんだ文化活動の場として、行事や祭り・学習などに利用され親しまれてきている。大阪湾沿岸の稀少な砂浜は、海水浴だけでなく、年間を通じ多くの人々に利用され、貴重な海とのふれあいの場となっている。

海岸の整備を進めるにあたっては、立地特性やそれぞれの機能との調和を図りつつ、今後さらに増大し高度化、多様化していくであろう一般公衆の多様な利用ニーズに応える海岸づくりを目指す。この際、良好な自然環境を損なうことのないよう、環境保全と利用促進のバランスに配慮していく。また、このような多様化、通年化する利用に即し、利用者の安全性に配慮した施設整備と管理を行う。

今後の海岸利用の要請に応えるためには、地域の行事や祭りなどに活用でき環境学習 や体験活動のできる海岸や、ヨットやサーフィン、釣りなどのスポーツ・レジャー利用 や、散策、ジョギングなどの日常的で身近な利用を楽しむことができる海岸を創出してい くものとする。

近年、沿岸域の再開発事業などにより、大規模集客拠点への利用転換が進み、人々が海 岸へ接する機会が増えていることから、海岸整備においても、周辺における他事業との調 整を図りつつ、親水性を考慮した活力とにぎわいのある海岸づくりを進めていく。

都市に近く、平穏な内水面を有する海岸では、様々なイベントなどの利用やボート遊び、やすらぎや憩いの場としての活用が期待されることから、今後さらに、地域の活動と 一体となった利用を進めていくこととする。

<海岸利用の利便性の向上>

大阪湾沿岸は、背後に利用密度の高い市街地が近接しているが、人々に開放されていない海岸が多く、人々を海辺から遠ざける一因となっている。海岸をより身近なものとしていくためには、安全で快適なアクセス路の確保や幹線道路から海岸にアクセスする際に容易に識別できる標識などの設置、海岸保全施設のバリアフリー化を進めていくことが重要であり、将来的にはユニバーサルデザインの実現を目指し、誰でも日常生活のなかで海岸に近づくことができるよう、関係機関が連携した総合的な対策を検討していく。

現行基本計画記載内容 変更記載内容(案)

- 変更なし

< 。

水門、閘門や排水機場など防災上重要な大規模施設は、地域のシンボルとして愛され 親しまれるよう、施設整備の際には配慮に努める。その上で、人々が施設見学を通じて 防災学習などに取り組むことができる機会を設けていくものとする。

また、海岸利用を増進するために、緑化修景地の創出や利便施設、遊歩道などの施設整備を行い、それらをネットワーク化するとともに、地域特性に配慮した親しみやすい海岸づくりを進めるものとする。

<海岸利用に関する地域との連携>

海岸利用は近年、利用形態の多様化、利用者の増加が進んでいるが、これにともない ごみ問題や景観や利便性を著しく損なう施設の汚損、放置艇などの問題が発生している。 今後、海岸を適正に利用していくうえで、ごみの不法投棄や施設の汚損などに対する マナー向上のための啓発活動を進め、放置艇については、港湾管理者など関係者と調整 し、改善に努める。

さらに、海辺で暮らす人々や海岸に訪れる多くの人達が、安心して心地よく海岸に親しむとともに、海の生物など自然環境の保全の大切さを認識できるような快適な海岸の利用を図っていくために、日常的な海岸の監視や利用者のモラル、マナー向上のための啓発活動、海岸利用のルールづくりなどについて地域と連携して取り組むものとする。

水門、閘門や排水機場など防災上重要な大規模施設は、地域のシンボルとして愛され親 しまれるよう、施設整備の際には配慮に努める。その上で、人々が施設見学を通じて防災 学習などに取り組むことができる機会を設けていくものとする。

また、海岸利用を増進するために、緑化修景地の創出や利便施設、遊歩道などの施設整備を行い、それらをネットワーク化するとともに、地域特性に配慮した親しみやすい海岸づくりを進めるものとする。

<海岸利用に関する地域との連携>

海岸利用は近年、利用形態の多様化、利用者の増加が進んでいるが、これにともないご み問題や景観や利便性を著しく損なう施設の汚損、放置艇などの問題が発生している。

今後、海岸を適正に利用していくうえで、ごみの不法投棄や施設の汚損などに対するマナー向上のための啓発活動を進め、放置艇については、港湾管理者など関係者と調整し、改善に努める。

さらに、海辺で暮らす人々や海岸に訪れる多くの人達が、安心して心地よく海岸に親しむとともに、海の生物など自然環境の保全の大切さを認識できるような快適な海岸の利用を図っていくために、日常的な海岸の監視や利用者のモラル、マナー向上のための啓発活動、海岸利用のルールづくりなどについて地域と連携して取り組むものとする。

現行基本計画記載内容 変更記載内容(案)

5. ゾーン毎の特性の明確化と整備の方向

5-1 沿岸のゾーン区分

大阪湾沿岸は海岸線延長が約 430km と長く、それぞれ異なった特徴を有していることから、先に示した基本理念、基本方針を具体化するため、21 のゾーンに分割し、具体的施策を示す。

表 1.5.1 及び図 1.5.1 にゾーン区分を示す。

ゾーン区分にあたっては、自然的特性(環境特性、海岸特性)や社会的特性(土地利 用特性、海岸利用特性、関連諸計画)を考慮し、連続性、一体性のある区域を選定し、 設定した。

・変更なし

5. ゾーン毎の特性の明確化と整備の方向

5-1 沿岸のゾーン区分

大阪湾沿岸は海岸線延長が約 430km と長く、それぞれ異なった特徴を有していることから、先に示した基本理念、基本方針を具体化するため、21 のゾーンに分割し、具体的施策を示す。

表 1.5.1 及び図 1.5.1 にゾーン区分を示す。

ゾーン区分にあたっては、自然的特性(環境特性、海岸特性)や社会的特性(土地利用 特性、海岸利用特性、関連諸計画)を考慮し、連続性、一体性のある区域を選定し、設定 した。

5-2 エリア特性の区分の考え方

海岸保全の目的は、大きく「防護」「環境」「利用」の 3 つに分類されているが、大阪湾沿岸においては安 全な海岸の整備(防護)を第一とし、環境、利用面 に配慮しながら相互の調和を図るものとしている。

環境面では主に残された貴重な自然環境の保全、 失われた自然環境の回復・創出、利用面では公衆が 楽しみ利用できる海岸づくり、都市、産業、港湾、 漁港などの都市基盤利用と公衆利用の調和をそれぞ れ目指している。

大阪湾沿岸を大別するエリア区分の考え方は「防 護」は全てのゾーンで共通して対応していくもので

「環境」 「利用」 公衆 都市 基盤

「防護」

あることから、「環境」と「利用」で特性を示す。大阪湾沿岸域は大きく分けると環境保全と公 衆利用、環境創造と公衆利用、環境創造と都市基盤利用と3つに区分できる。

エリア特性 の名称	組立	基本的な海岸づくりの方向		
環境保全・ 親しみエリア	環境保全 + 公衆利用	貴重な自然環境を保全していくとともに海の 体験や自然観察、学習の機会を創出していく		
環境創造・ 楽しみエリア	環境創造 + 公衆利用	自然環境に配慮しつつ、地域特性を生かした環境を回復・創出し、レクリエーション・レジャーなど海を楽しむことのできる海岸づくりを目指す		
環境創造・ 活性化エリア	環境創造 + 都市基盤利用	都市、産業、港湾などの機能が集積しており、 自然環境の回復・創出や景観にも配慮しつつ、 都市基盤利用と公衆利用の調和を図り、魅力あ る海岸づくりを目指す		

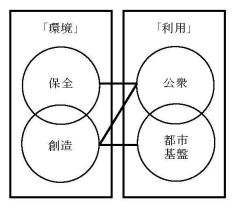
- 変更なし

5-2 エリア特性の区分の考え方

海岸保全の目的は、大きく「防護」「環境」「利用」の 3 つに分類されているが、大阪湾沿岸においては安 全な海岸の整備(防護)を第一とし、環境、利用面 に配慮しながら相互の調和を図るものとしている。

環境面では主に残された貴重な自然環境の保全、 失われた自然環境の回復・創出、利用面では公衆が 楽しみ利用できる海岸づくり、都市、産業、港湾、 漁港などの都市基盤利用と公衆利用の調和をそれぞ れ目指している。

大阪湾沿岸を大別するエリア区分の考え方は「防 護」は全てのゾーンで共通して対応していくもので 「防護」



あることから、「環境」と「利用」で特性を示す。大阪湾沿岸域は大きく分けると環境保全と公 衆利用、環境創造と公衆利用、環境創造と都市基盤利用と3つに区分できる。

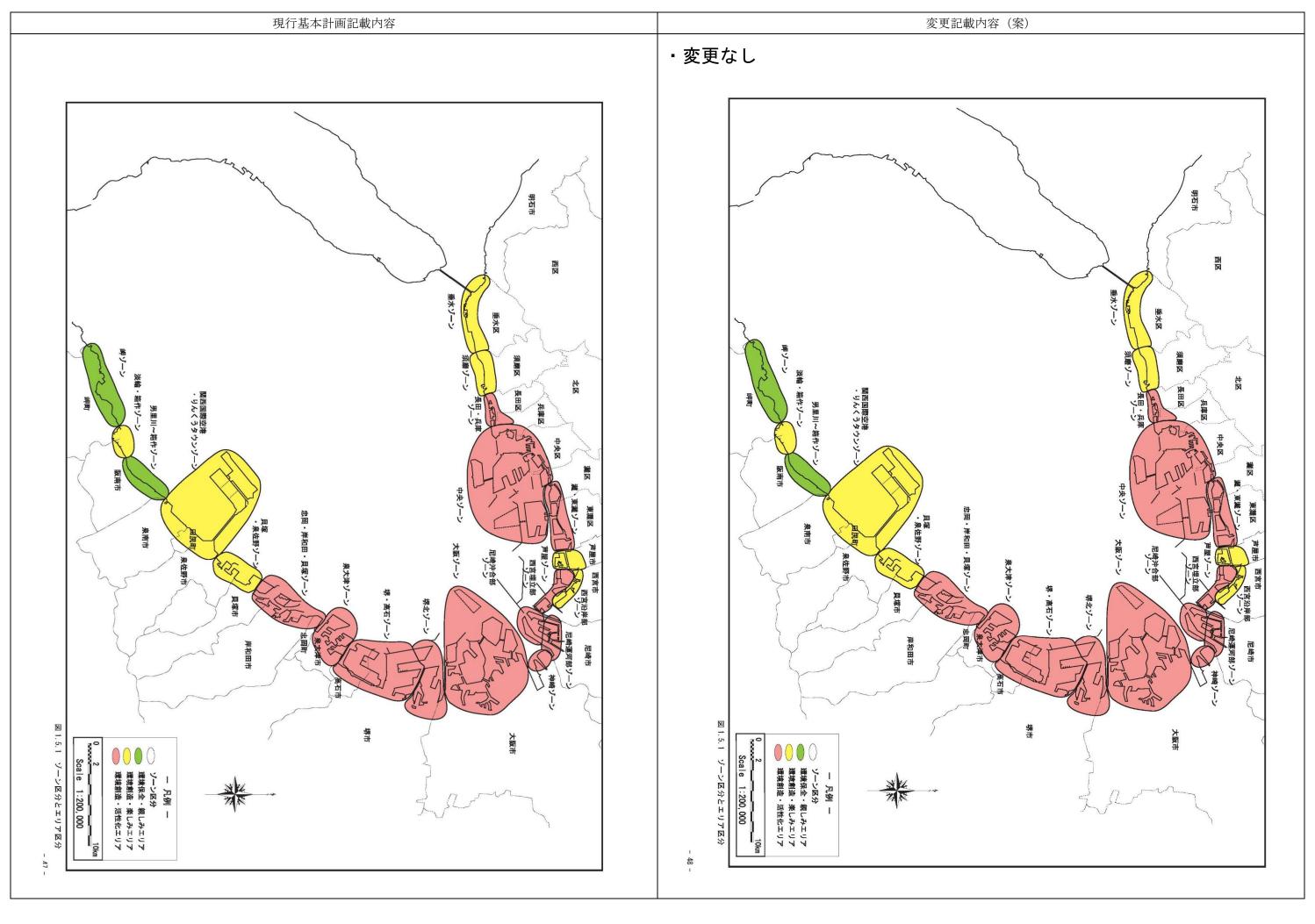
エリア特性 の名称	組立	基本的な海岸づくりの方向
環境保全・ 親しみエリア	環境保全 + 公衆利用	貴重な自然環境を保全していくとともに海の 体験や自然観察、学習の機会を創出していく
環境創造・ 楽しみエリア	環境創造 + 公衆利用	自然環境に配慮しつつ、地域特性を生かした環境を回復・創出し、レクリエーション・レジャーなど海を楽しむことのできる海岸づくりを目指す
環境創造・ 活性化エリア	環境創造 + 都市基盤利用	都市、産業、港湾などの機能が集積しており、 自然環境の回復・創出や景観にも配慮しつつ、 都市基盤利用と公衆利用の調和を図り、魅力あ る海岸づくりを目指す

変更記載内容(案)

					水運県			.,,,,,,,,			区分级
⊄ E	历		西省市	芦屋市				神戸市			
化エリア	環境創造・活性		のエリア創造・	楽し。東京		活性化エリア	環境創造・		楽しみエリア	環境創造・金	井位
思る。 以上 と	にい	単一なソ	部の沿岸	声が上をい	類としまれる。		グーグ	成・ 田 里 マ ー ソ	領ソ語ーン	単 ト ソ	ゾーン名
・ 周四祖やめるため全て人工循環である。 - 凡感面四日ともに第一線記載ラインを構成している。 - 同郷 21 世紀の探籍部に掲力を、元曜の探4年大線出が期価されている。	・ 瀬戸郎な、野敷的な木板であるため、一般 部な海球の人メージったは最なる。 カロメートル地帯が存在する。 北田メートル地帯が存在する。 工業地のイメージが強いが、近年は関門付近を中心に数大在最が海を整備しており、 大辺の聚糖が自大しつつある。	3.0	人工海岸と半自然海岸が混在している。 香爐園浜や甲子園浜は水馬の飛来地と なっており馬鉄保護区に指定されている。 砂浜の広がる海岸や臨液部の公園があり、 貝好な海岸景観となっている。	 全て人工海岸である。 南芦屋浜に人工海浜がある。 近年、護岸部が改長され、海岸景観、水縣 高へのアクセスなどが向上している。 	・全て人工海岸である。 ・埋立地は特に工業地が広がり、近春りがた ・海立地は特に工業地が広がり、近春りがた ・海岸のイメージがある。	o o	 全て人工海岸である。 ボートタワーや公園などがあり、神戸港の 代表的な景観となっている。 空港島周辺では薬場の再生・増殖が進められている。 	全て人工海岸である。連河が発達している。正有が発達している。工業地があり、近寄りがたいイメージがあるが、運可部付近はプロムナードが整備され、海辺の景観が向上しつつある。	 人工海岸と半自然海岸が混在している。 議場があり、増加場では海藻や魚類の保 妻・育成が進められている。 自砂青松の良好な海岸景觀となっている。 	人工確康と半自然確康が混在している。議場がある。※場場がある。※緊島や明石大橋海峡など雄大な景観が 広がる。	自然的特性
 工業品、議施監教・フス利用されたおり、一部開発中心的心。 農業義強の技术に伴い、選末出が発生フトでめ。 原業義強の技术に伴い、選末出が発生フトでめ。 元本の様中央総当な江土を多様石に掲載しても呼ばれる第十の様とへりがますがよい。 	工業机、補償施設として利用されて会立が、製水治療料の数値によった無いの場が が、製水治療料の数値によった無いの場が 形成されつつめる。	工業地、港湾施設、海洋性レクリエーション空間として利用されている。	 工業批、住居地、港湾施設、公園、海洋性 ・丁業地、住居地、港湾施設、公園、海洋地 ・リューション空間として利用されて いる。 西宮始台や酒蔵など歴史的な文化資産が 点在する。 	 住居地、海洋性レクリエーション空間として利用されている。 南芦屋浜は住居地及び海洋性レクリエーションの拠点としての整備が進められている。 	工業地、住居地、港湾鉱設として利用されている。お岸部は指造会社及び宿造にかかわる文化資産が点在する。		 工業地、商業地、住居地、港湾施設、海上 アクセスの拠点、公園として利用されている。 申押空港及び空港島内施設が新たな観光 地上して利用されている。 	 工業品、商業地、住居地、港海施製、海洋 住下グリエーション空間として利用され ている。 	住居地、海洋性レクリエーション空間として利用されている。海域は漁業権が設定されている。	・ 住居地、海洋性レクリエーション会間として利用されている。・ 漁港があり、海域は漁業権が設定されている。・ 参信閣や五色板計道など歴史的な文化造産が派在する。	社会的特性
					大阪府						N →
門角	E-E-	网	田児町市	京 泉佐野市	思 神 四 門 門 田 中	泉大津市	恒上	蘇七	炎 仁	⊀ i	区区
エリア環境保全・親しい	みエリア環境創造・楽し	みエリ金・親し環境保	楽しみエリア	環境創造・			化エリア	環境創造・活性			特体
車ジーン	全 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 る も と り と り と り と り と り と り と り と り と り と	男里三~ ガーン	短題 関語 国語 国 空港・ の の か へ う か ら ン ン ブーン	見 東京 ・ ジー ツ	忠岸見が囲れば、田・	泉 大 ン ン	様 ジェー 高 ン石		大グ版一	益 ン 尾 リ	ゾーン名
大阪府条例により自然海浜保全地区に指定されている区間がある。議場がある。自然海岸があるり良好な自然海岸景観となっている。	- 人工循揮である。 - 人工循揮である。 - 人工循្ - 人工循្ - 機が整備されており、良好な - 海岸景観となっている。	・ 半自然海岸が連続している。・ 薬場がある。・ 男里川河口には干潟がある。	金で人工海岸である。 綾傾斜響性や人工海浜が整備されており、良好な海岸景観となっている。 空港島周辺では薬場等の再生が進められている。	 全て人工海岸である。 一色の浜には繋浜による我が国初の人工 海浜があり、良好な海岸景観となっている。 	全て人工海岸である。単和田旧港が再開発整備されており、良好な海岸乗動となっている。阪南2区では人工干潟が整備されている。	全て人工海岸である。泉大津旧港が再開発整備されており、良好な海岸景観となっている。	 全て人工海岸である。 工業地となっているが、浜寺公園と一体 となった親水鎌岸が整備されており、水辺景観は向上している。 	全て人工海岸である。郷日海が耳開発整備され、水辺の景観が 向上している。堺2区の沖で人工干潟の整備、堺第7-3 区では共生の森づくりが進められている。	 全て人工海岸である。 ゼロメートル地帯が存在する。 ゼロメートル地帯が存在する。 ブロカナーターフロント拠点、無当では人工機・シーサイドプロムナードが整備され良好な海岸景能となっている。 	全て人工海岸である。工業地の先端部となっており近春りがたい海岸のイメージがある。	自然的特性
・ 背後地は住用地や山林となっている。・ 海製は熊栗橋が設定されている。	共に循辞権カレクリエーション公開とした 利田がおんこる。海球公園が製備がお、府民の観いの場と なったいる。海峡は漁業権が設定されたいる。	されていれてい	・ 関西国際空港が立地しており、りんくう タウンでは物流・産業・商業機能等都市 機能の整備が進められている。 ・ 海浜公園が整備され、府民の憩いの場と なっている。 ・ 海域は漁業権が設定されている。	住居地、工業地、海洋性レクリエーション空間として利用されている。海浜公園が整備され、府民の憩いの場となっている。海域は漁業権が設定されている。	・港湾旅設、住居地、工業地として利用されている。 れている。 に関す 2 区の組め立て造成が進められており、物流・産業・環境創造など複合的な機能の整備が進められている。	・護衛監設、工業地、住居地として利用されている。 れている。 ・ 疾北6区(助松塊頭)、泉大津旧港、沙! ・ 疾北6区は大い流・遊業・環境創造 (海地)などでは、物流・遊業・環境創造 (海地)など後台的な機能の整備が進る られている。	 ・ 港湾施設、工業地、住居地として利用されている。 ・ 海浜公園が製備され、府民の憩いの場となっている。 	・諸道監督、住居地、商業地、工業地として利用されている。 で利用されている。 ・堺旧港には国指定の史跡である旧堺燈台がある。	 港湾施数、住居地、工業地、海上アクセスの製点として利用されている。 商業・サードアス・スポーツ・レジャー基数が複合立地した、大規模なレクリエーション施設が整備されている。 	専期から埋立てが進み工業利用されている。大会地区の先端部に矢倉緑地が整備されている。	社会的特性

変更なし

±.	历		围回任		拉風市	兵庫県			神口生			行区级公
イニント	環境創造・活性:			4エリア 創造・			活性化エリア	療場創造・		楽しみエリア	環境創造・名	エリア
が で デン ロン ロン	穏ン 第一	回ブー		西宮沿岸部ゾーン	声が一層し	が 東 ※		グーケン	が ボ ボ ボ エ エ エ エ エ エ エ エ エ エ エ エ エ	縦 ン 稲 l ソ	ガーソ	ゾーン名
・ 通光は、80~80年、八十時年、80。 - 通路開出しても広路一般防難ライン名権 扱っている。 - 見倫 21 世紀の森構想に基づさ、見崎の森 中央緑地が難備されている。	の政策学のイメージでは異なるのでの政策学のイメージでは異なるのではない。 ロメートラ語素が存在する。 乗出のイメージが譲っが、活単に 近今中心に親大在護手等を裁編し ボージを繋がしてしつられる。	るため全て人工海岸で リーナなど、都市部と 景観が存在する。	************************************	スロールである。 マロールでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	全て人工海岸である。南岸屋浜に人工海岸である。近年、護岸部が改良され、海岸景観、水腰部へのアクセスなどが向上している。	全て人工海岸である。埋立地は特に工業地が広がり、近春りがたい海岸のイメージがある。		 全て人工海岸である。 ボートタワーや公園などがあり、神戸港 が内状的な景貌となっている。 空結島周辺では凝場の再生・増殖が進められている。 	全て人工海岸である。運河が発達している。工業地があり、近常りがたいイメージがあるが、運河部付近はプロムナードが整備され、海辺の景観が向上しつつある。	 人工海岸と半自然海岸が混在している。 議場があり、増加場では海藻や魚類の保護・育成が進められている。 自砂青板の良好な海岸景糖となっている。 	人工海岸と半目然海岸が混在している。薬場がある。淡路島や明石大幡海峡など維大な景観が 広がる。	自然的特性
一株式、高尾部成り、これにはなった。 の、一窓開始中心が必。 ・ 福業義祖の教行に年で、頒末起が発布している。 ・ 西部の崇中大談出り江州党多様名に問題して参画で落場による第十の様子の様が、	、通路館製でして利用されて水布線型の銀備によって窓で水布線型の銀備によって窓ではたつつめる。	地、港湾施設、海洋性レクリエー ン空間として利用されている。	(いつ。)西宮砲台や酒職など歴史的な文化資産が 点在する。	 工業地、住居地、港湾施設、公園、海洋 性レクリエーション空間として利用されている。 	 住居炫、海洋性レクリエーション空間として利用されている。 南	 工業的、住居的、港湾旅設として利用されている。 おでいる おきがは本途会社及び指途にかかわる女化資産が点在する。 	1	 工業地、商業地、住居地、港湾施設、海上デクセスの拠点、公園として利用されている。 ・ 井戸空港及び空港島内施設が新たな観光地トレで利用されている。 	 工業処、商業処、在居地、港湾施設、海洋在レグリエーション空間として利用されている。 	地、海洋利用されて漁業を	・ 在居私、稀存性レクリエーション空間として利用ようたいる。・ 漁港があり、海域は漁業権が設定されている。・ 多情観や五色家古墳など歴史的な文化遺儀が浜在する。	社会的特性
母畜	E F	- W	进 医	田 三	以 实在野生	題 告任 前	泉大猫市	旭	李	聚 任	1	10分数
みエリア環境保全・親し	しみエリア環境創造・楽	サルトの関係が、対象の対象を表現である。		難しみ楽しみ	東境創造・環境創造・	田		おエリア	環境創造・活性			エリア特性
事 \ 	循ジに	里作一川川	タウン	西港・国	具塚・ 東佐野 ゾーン	忠岸貝グ岡和塚一・田)ン	泉 大 ゴ ー ン	神・恵 石	禁 ル ド ソ	大 家 ソ	び 高	ゾーン名
へを加まれて、リーの事実末土成立では だなれて、20回がある。 ・ 維導がある。 ・ 自然海洋があり反母な自然海洋景観となっている。	人工海帯である。 人工海ボである。 人工海浜・磯が整備されており、良好な海岸景観となっている。 海岸景観となっている。		り、反外は海岸家戦となっている。 ・ 空港島周辺では薬場等の再生が進められ ている。	 全て人工海岸である。 緩傾斜護岸や人工海浜が整備されており、自分が近半点細した。エンス 	 全て人工海岸である。 二色の浜には菱浜による袋が国初の人工 浦浜があり、良好な海岸景観となっている。 	全て人工海岸である。卓和田旧港が再開系整備されており、良 年な海岸県地となっている。阪南2区では人工干潟が整備されている。		 全て人工海岸である。 工業地となっているが、浜寺公園と一体となった観水鉄岸が敷備されており、水辺泉銀は向上している。 	全て人工海岸である。専旧海が再開発整備され、水辺の景観が 向上している。堺2区の沖で人工干潟の整備、堺第7-3 ででは共生の森づくりが進められている。	 全て人工海岸である。 ゼロメートル地帯が存在する。 天成山ハーバービレッジでウォーターフロント拠点、素케では人工機・シーサイドプロムナードが整備され良好な海岸景報となっている。 	全て人工種様である。工業地の先端的となっており近告りがたい流帯のイメージがある。	自然的特性
・ 軍政治を圧化されてする。	・ 土に海洋在レクリエーション 利用されている。 利用されている。 ・ 海浜公園が整備され、府民の なったいる。 ・ 海坂江衛業権が設定されてこ	主に住居地として利用されている。海坂は漁業権が設定されている。	★無形の整備が辿められている。・海浜公園が整備され、府民の憩いの場となっている。・海域は漁業権が設定されている。	 ■関西国際空港が立地しており、りんくう タウンでは物流・産業・商業機能等都市 機能の動揺がまたったいる 	 住居地、工業地、海洋性レクリエーション空間として利用されている。 海浜公園が整備され、府民の憩いの場となっている。 海坂は漁業権が設定されている。 	・議衛裁数、住居地、工業地として利用されている。 れている。 ・ 阪備 2 区の埋め立て造成が進められており、物流・産業・要接創進など複合的な機能の整備が進められている。	・港湾拡戦、工業地、住居地として利用されている。 れている。 東北6区(助松埠頭)、東大津旧港、汐 見沖地区などでは、秋浦・産業・乗塘創 造 (緑地) など複合的な機能の整備が進 められている。	・港湾旅設、工業地、住居地として利用されている。・港済公園が製備され、府民の憩いの場となっている。	・ 議橋監督、住民地、商業地、工業地として利用されている。・ 壊旧塔には国指定の史跡である旧様癒台がある。		早期から建立てが進み工業利用されている。天倉地区の先端部に矢倉緑地が整備されている。	社会的特性



5-3 ゾーン毎の施策

I	重水ン	r_:	9	環境創造・楽しみエリア
		٠	海岸保全施設の未整備区間では整備を促進し、	高潮・侵食に対する防護機能
		_	を確保する。	ミノりナン体はマ
			環境や利用面に配慮した面的防護方式の施設で	2 450 000 1000000000 0000000
防	護	•	予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な網のお時期に海岸保入技能の表を無力しません。	solventer and the second secon
			切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必	公安に応して維持・修繕寺を1丁
			う。 情報の収集・発信、高潮や津波など非常時の過	*難シフテルダソフト売の対策
		•	開報の収集・光音、同梱や年級などが市時の 強化を図る。	#無フヘノム寺ノノ下面の対象
				逆ぶたなしていてとしょ 老卓
		•	背後地の鳥獣保護区や藻場など貴重な自然環	
	2043		し、生態系に配慮した水辺環境づくりを進める	٥
環	境	•	砂浜を有する良好な海岸景観づくりを進める。	
		•	海岸愛護の啓発やボランティア活動の支援に努	る。 である。
		•	地域と協力して環境維持に努める。	
		•	海と親しみ多様なレクリエーションを楽しむ	ことのできる海岸づくりを進
			め、利便性の向上に資する施設整備等を推進す	`る。
利	用	٠	安全で快適なアクセスづくりやバリアフリー化	た推進する。
		•	海岸利用のマナー向上のための啓発活動、ルー	- ルづくり、美化運動などを推
			進する。	

須	磨り	r—:		環境創造・楽しみエリア					
		•	高潮・津波等に対する防護機能を確保する。						
	● 侵食を防止し、海岸の長期的な安定化を図る。 - ストローの表示されて其ばされ悪的、物変的な維持等理な進みです。								
		• 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進	AND						
防 護 切な時期に海岸保全施設の老朽度	切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必	必要に応じて維持・修繕等を行							
			う。						
		•	関係機関と協議し、防災情報伝達体制、避難体	制の強化を図る。					
		•	津波対策を地元と協力し、検討する。						
	• 自然環境に配慮した海岸づくりに努める。								
環	境	•	地域と協力して環境維持に努める。						
垛	児	•	海岸愛護の啓発やボランティア活動の支援に努	なめる。					
		•	薬場等の造成による豊かな海づくりを進める。						
		•	多くの人が自然とふれあい、多様なレクリエー	- ションを楽しむことができる					
			海岸づくりを進める。						
		•	多くの人が海辺と親しむことができるよう安全	きで快適なアクセスづくりやバ					
			リアフリー化を推進する。						
利	用	•	海岸でのレクリエーション利用では地域住民や	P地域産業との調整を図ると共					
			に海岸利用のマナー向上のための啓発活動やハ	A AND THE SECOND					
			化運動などを推進する。						
		•	地域の行事や活動などに利用できる海岸づくり	を進める。					
		•	子供連れ家族が、安全・安心に利用できる遠浅	100 TO 1 100 TO					

・本文追記

・兵庫県にて修正

5-3 ゾーン毎の施策

各ゾーンの自然的特性、社会的特性を踏まえ、ゾーン毎の具体的施策を設定した。

∄	重水と	ў — ;	v	環境創造・楽しみエリア
		•	海岸保全施設の未整備区間では整備を促進し、	高潮・侵食に対する防護機能
			を確保する。	ミノカナ、佐ムフ
		•	環境や利用面に配慮した面的防護方式の施設で	
防 護	護	•	予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な網	推持管理を進めるものとし、適
נטן	口文,		切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必	公要に応じて維持・修繕等を行
			う。	
			情報の収集・発信、高潮や津波など非常時の過	辞難システム等ソフト面の対策
			強化を図る。	
		•	背後地の鳥獣保護区や藻場など貴重な自然環	境が存在していることを考慮
			し、生態系に配慮した水辺環境づくりを進める	0
環	境	•	砂浜を有する良好な海岸景観づくりを進める。	
		•	海岸愛護の啓発やボランティア活動の支援に努	がめる。
		•	地域と協力して環境維持に努める。	
		•	海と親しみ多様なレクリエーションを楽しむ	ことのできる海岸づくりを進
			め、利便性の向上に資する施設整備等を推進す	`る。
利	用		安全で快適なアクセスづくりやバリアフリー化	を推進する。
	2 (3)		海岸利用のマナー向上のための啓発活動、ルー	
		0.00		パラマッ、大口圧動はこで世
			進する。	

(W)	原磨 ソ	r—:	·	環境創造・楽しみエリア			
		٠	高潮・津波等に対する防護機能を確保する。				
	侵食を防止し、海岸の長期的な安定化を図る。 予防保全の考え方に基づき計画的。効率的な維持管理を進めるもの。						
-		• 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進めるも					
防	護		The same two comments are the same and the same transfer and the same transfer are the same transfer and the same transfer are the same transfer and the same transfer are the s	要に応じて維持・修繕等を行			
			Ď.	War-10 1902 Mile No. 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10			
		•	関係機関と協議し、防災情報伝達体制、避難体	制の強化を図る。			
		٠	津波対策を地元と協力し、検討する。				
		•	自然環境に配慮した海岸づくりに努める。				
T.000	144	٠	地域と協力して環境維持に努める。				
環	境	•	海岸愛護の啓発やボランティア活動の支援に努	める。			
		•	藻場等の造成による豊かな海づくりを進める。				
		•	多くの人が自然とふれあい、多様なレクリエー	-ションを楽しむことができる			
			海岸づくりを進める。				
		•	多くの人が海辺と親しむことができるよう安全	で快適なアクセスづくりやバ			
			リアフリー化を推進する。	8 400 500 U			
利	用	•	海岸でのレクリエーション利用では地域住民や	♥地域産業との調整を図ると共			
			に海岸利用のマナー向上のための啓発活動やル	A DATE OF THE PROPERTY OF THE			
			化運動などを推進する。	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			
			地域の行事や活動などに利用できる海岸づくり	を進める			
			子供連れ家族が、安全・安心に利用できる遠浅	And the second s			
		30.5	」	毎片正開て些いる。			

現行	基本計画記載内容	変更記載内容(案)		
		・兵庫県にて修正		
長田・兵庫ゾーン	環境創造・活性化エリア			
● 民有護岸で整備・改修等が必 働きかけていく。 予防保全の考え方に基づき計 切な時期に海岸保全施設の老材 ● 内水排除対策と整合のとれた。 ● 関係機関と協議し、海岸保全 の強化を図る。 ● 津波対策を地元と協力し、検討 電域と協力して環境維持に努る ・ 海岸愛護の啓発やボランティン ・ 兵庫運河について、環境の回復	皮性能等の強化を行い防護機能を確保する。 要な場所については、護岸所有者への指導等を 画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適 万度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 坊護機能を確保する。 施設の操作体制や防災情報伝達体制、避難体制 対する。 める。 ア活動の支援に努める。			
 運河区域については、周辺地域ンやプロムナード等、多くのの安全で快適なアクセスづくりで、地域の行事や活動などに利用 	10 Value 10 10 August 10 A			
中央ゾーン	環境創造・活性化エリア			
● 予防保全の考え方に基づき計切な時期に海岸保全施設の老村内水排除対策と整合のとれた。 ● 関係機関と協議し、海岸保全の強化を図る。 ● 津波対策を地元と協力し、検討	能を確保する。 皮性能等の強化を行い防護機能を確保する。 画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適 万度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 防護機能を確保する。 施設の操作体制や防災情報伝達体制、避難体制 対する。 用の変更等により海岸保全施設が必要になれば			
■ 国内外の人々が訪れるウォータ 地域と協力して環境維持に努る 海岸愛護の啓発やボランティン	ターフロント空間の景観に配慮する。 める。			

- 49 -

運動などを推進する。

利 用 つつ、可能な場所については多くの人が水辺に親しめるような整備を検討する。 ・ 神戸空港を中心とした海辺の観光拠点づくりを進める。

● 日本を代表する港であり港湾活動が盛んであるため、港湾機能と調和を図り |

・ 安全で快適なアクセスづくりやバリアフリー化を推進する。
・ 地域の行事や活動などに利用できる海岸づくりを進める。
・ 海岸利用のマナー向上のための啓発活動やルールづくり、放置艇対策、美化

	現行基本計画記載内容	変更記載内容(案)	
		・兵庫県にて修正	
灘・東灘ゾーン	環境創造・活性化エリア		
民有護岸で整備・改修働きかけていく。予防保全の考え方に基切な時期に海岸保全施の水排除対策と整合の	、耐津波性能等の強化を行い防護機能を確保する。 等が必要な場所については、護岸所有者への指導等を づき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適 設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 とれた防護機能を確保する。 程保全施設の操作体制や防災情報伝達体制、避難体制		
環 焙 ● 地域と協力して環境維	M MATERIAL AND MAT		
岸利用が可能となれば るような整備を検討す 利 用 ● 安全で快適なアクセス ● 地域の行事や活動など	用されているが、土地利用の変化等に応じて公衆の海、産業機能と調和を図りつつ、多くの人が水辺に親しめる。 づくりやバリアフリー化を検討する。 に利用できる海岸づくりを進める。 のための啓発活動やルールづくり、放置艇対策、美化		
連動などを推進する。			
芦屋ゾーン	環境創造・楽しみエリア		
芦屋ゾーン ■ 予防保全の考え方に基切な時期に海岸保全施 防 護 情報の収集・発信、高を強化する。			
	(ごき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 所納や津波など非常時の避難システム等ソフト面の対策 を確保する。 (主に努めるとともに、白砂青松のあるアメニティ豊かな全・回復に努める。 (美化運動などのボランティア活動を支援する。		
	一つき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 一部や津波など非常時の避難システム等ソフト面の対策を確保する。 一に努めるとともに、白砂青松のあるアメニティ豊かな 全・回復に努める。 美化運動などのボランティア活動を支援する。 施設整備等を行い、海と親しみ、多様なレクリエーショる海岸づくりを進める。 アフリー化により、快適な海岸利用を促進する。 での住環境との調整を図るために、マナー向上のための		
	一つき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 一部や津波など非常時の避難システム等ソフト面の対策を確保する。 一に努めるとともに、白砂青松のあるアメニティ豊かな 全・回復に努める。 美化運動などのボランティア活動を支援する。 施設整備等を行い、海と親しみ、多様なレクリエーショる海岸づくりを進める。 アフリー化により、快適な海岸利用を促進する。 での住環境との調整を図るために、マナー向上のための		
	一つき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 一部や津波など非常時の避難システム等ソフト面の対策を確保する。 一に努めるとともに、白砂青松のあるアメニティ豊かな 全・回復に努める。 美化運動などのボランティア活動を支援する。 施設整備等を行い、海と親しみ、多様なレクリエーショる海岸づくりを進める。 アフリー化により、快適な海岸利用を促進する。 での住環境との調整を図るために、マナー向上のための		

	現行基本計画記載区	为容		変更記載内容(案)
			・兵庫県にて修正	
西宮沿岸部ゾーン		環境創造・楽しみエリア		
予防保全の切な時期に陸閘などに ムの導入を 海岸保全が 情報の収集を強化する	こして耐震性、耐津波性能の強化を行う考え方に基づき計画的、効率的な 海岸保全施設の老朽度を点検し、必 こついて、電動開閉方式の採用や遠 と図り、施設の迅速かつ確実な閉鎖を 一設の適切な維持管理を行う。 長・発信、高潮や津波など非常時の こる防護機能を確保する。	維持管理を進めるものとし、適 要に応じて維持・修繕等を行う。 隔操作のできる集中管理システ 本制を確立する。		
で生態系は ・環境回復は ・歴史資源の 青松の海岸 ・地域と協力	など貴重な自然環境が存在してい 三配慮した水辺環境づくりを進める。 二関する技術開発の活動を支援する。 ご活用や海浜植物が育成できる砂浜 登景観づくりを進める。 」して環境保全・回復に努める。 活動の啓発や美化運動などのボランデ	の保全、植栽などによって白砂		
海岸づくり 利 用 ● アクセス~ ● 海岸利用	目わりの深い歴史資源と親しみ、多定を進める。 を進める。 づくりやバリアフリー化により、快道 こついて地域の住環境や自然環境と の啓発活動やルールづくり、放置艇対	適な海岸利用を促進する。 の調整を図るために、マナー向		
西宮埋立部ゾーン		環境創造・活性化エリア		
 予防保全の切な時期に 陸閘などしムの導入を海岸保全が 情報の収集を強化する 	こして耐震性、耐津波性能の強化を行う考え方に基づき計画的、効率的な 海岸保全施設の老朽度を点検し、必 こついて、電動開閉方式の採用や遠 に図り、施設の迅速かつ確実な閉鎖を 直設の適切な維持管理を行う。 ま・発信、高潮や津波など非常時の こる防護機能を確保する。	維持管理を進めるものとし、適 要に応じて維持・修繕等を行う。 隔操作のできる集中管理システ 本制を確立する。		
環 境 ● 地域と協力 ● 海岸愛護派	区に隣接しており、生態系など自然の のして環境保全・回復に努める。 活動の啓発や美化運動などのボランラ	ティア活動を支援する。		
■ ■ ● アクセス~	P港湾機能と調和した活力とにぎわい うくりやバリアフリー化により、快道 ロマナー向上のための啓発活動やル	適な海岸利用を促進する。		

	現行基本計画記載内容	変更記載内容(案)	
		・兵庫県にて修正	
尼崎運河部ゾーン	環境創造・活性化エリア		
水門や陸閘などについて システムの導入を図り、 防 護 予防保全の考え方に基づいな時期に海岸保全施説 情報の収集・発信、高減を強化する。	を点検し、必要に応じて改良・補修等を行う。 て、電動開閉方式の採用や遠隔操作のできる集中管理 施設の迅速かつ確実な閉鎖体制を確立する。 づき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適 との老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 例や津波など非常時の避難システム等ソフト面の対策		
■ 環境回復に関する技術制 ■ アメニティ豊かな海岸制 ■ 地域と協力して環境保全 海岸愛護活動の啓発や割	景観を創出する。		
地域の行事や活動などに都市、港湾などの機能にきる海岸づくりを進めるアクセスづくりやバリフ	ご利用できる海岸づくりを進める。 と調和を図りつつ、遊歩道などで海とのふれあいので		
尼崎沖合部ゾーン	環境創造・活性化エリア		
 海岸保全施設の老朽度を開門、水門や陸閘などは中管理システムの導入を予防保全の考え方に基づな時期に海岸保全施設・情報の収集・発信、高速を強化する。 高潮に対する防護機能を 	Secretarian by the secretarian between the secretarian betwee		
	全・回復に努める。 美化運動などのボランティア活動を支援する。		
都市、港湾などの機能。利用 きる海岸づくりを進めるアクセスづくりやバリフ	ご利用できる海岸づくりを進める。 と調和を図りつつ、遊歩道などで海とのふれあいので う。 アフリー化により、快適な海岸利用を促進する。 Dための啓発活動やルールづくりなどを推進する。		

現行基本計画記載内容	変更記載内容(案)

†	神崎ゾーン			環境創造・活性化エリア
防	護	•	予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な約 切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必 高潮や津波などによる非常時の対応などソフト	要に応じて維持・修繕等を行う。
環	境	•	地域と協力して環境維持に努める。	
利	用	•	安全で快適なアクセスづくりやバリアフリー化 海岸利用のマナー向上、ルールづくりなどを推	N

7	大阪ゾーン			環境創造・活性化エリア
			堤防等のさらなる耐震・液状化対策、耐津波性	上能の強化を図るとともに、陸
	-44		開・水門の改良又は統廃合に努める。 - ストローカー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	the believes to the same of th
防	護	•	予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な網	and the state of t
			切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要	
		•	高潮や津波などの非常時における対応などソフ	A VICES OF TREATMENT CONTROL OF THE REPORT OF THE PROPERTY OF
		•	自然環境の回復・育成など生態系に配慮し、オ	く質の改善にも寄与する水辺環
	x2702		境を創出する。	
環	境	•	国際的に開かれた都市・港湾機能にふさわしレ	ゝ美しさと潤いのある豊かな海
			岸景観を創出する。	
		•	地域と協力して環境維持に努める。	
• 地域の行事や活動などに利用できる海岸づく!		地域の行事や活動などに利用できる海岸づくり	を進める。	
		•	高度な都市機能と港湾機能が調和した活力とは	こぎわいのある海岸づくりを進
			める。	
		•	海と親しみふれあう喜びを感じる都市型の観光	ビ・レクリエーションを楽しむ
利	用		ことのできる海岸づくりを進める。	
		•	海岸利用の多いところでは安全で快適なアクセ	マスづくりやバリアフリー化を
			推進する。	50° MB MB 50° MB
		•	海岸利用のマナー向上、ルールづくり、放置般	金対策、美化運動などを推進す
			る。	

気候変動に関する追記

神崎ゾーン			ン	環境創造・活性化エリア
防	護		ソフト対策等を組み合わせ、必要に応じて気候や、耐津波性能の強化等を図り、防護機能を確 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維まな時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要 高潮や津波などによる非常時の対応などソフト	<mark>保する</mark> 。 持管理を進めるものとし、適切 に応じて維持・修繕等を行う。
環	境	٠	地域と協力して環境維持に努める。	
利	用	•	安全で快適なアクセスづくりやバリアフリー化 海岸利用のマナー向上、ルールづくりなどを推	9.1.

大阪ゾーン		ン	環境創造・活性化エリア	
防	ソフト対策等を組み合わせ、気候変動に対応した堤防の改良等や、耐震・ 化対策、耐津波性能の強化等を図り、防護機能を確保する。 陸閘・水門の改良又は統廃合に努める。 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行る剤を消費を必要を必要している。		<mark>を確保する。</mark> 持管理を進めるものとし、適切 に応じて維持・修繕等を行う。	
環	境		自然環境の回復・育成など生態系に配慮し、水質を創出する。 国際的に開かれた都市・港湾機能にふさわしい 景観を創出する。 地域と協力して環境維持に努める。	質の改善にも寄与する水辺環境
利	用		地域の行事や活動などに利用できる海岸づくり 高度な都市機能と港湾機能が調和した活力とに める。 海と親しみふれあう喜びを感じる都市型の観光 とのできる海岸づくりを進める。 海岸利用の多いところでは安全で快適なアクセ 推進する。	ごぎわいのある海岸づくりを進 ・レクリエーションを楽しむこ こスづくりやバリアフリー化を
		•	海岸利用のマナー向上、ルールづくり、放置艇対	対策、美化運動などを推進する。

変更記載内容(案)

岁	堺北ゾーン 環境創造・活性化エリア			環境創造・活性化エリア
防	護	•	高潮対策として胸壁の新設や堤防の嵩上げ等のる。 津波対策として耐震性、耐津波性能の強化を行 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維 切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要 高潮や津波などによる非常時の水門等操作の安 対策強化を図る。	い防護機能を確保する。 維持管理を進めるものとし、適 要に応じて維持・修繕等を行う。
環	境	•	水質の改善や堺 2 区における人工干潟の整備、 等の生態系の回復に配慮した海辺づくりを進め 堺旧港周辺ではウォーターフロントの特性を生 ることから、これらの特性と調和のとれた豊か 地域と協力して環境維持に努める。	る。 Eかした施設整備が行われてい
利	用	• • • •	地域の行事や活動などに利用できる海岸づくり 都市機能・港湾機能や堺旧港の歴史資源とが 海岸づくりを進める。 安全で快適なアクセスづくりやバリアフリー化 海岸利用のマナー向上、ルールづくり、放置艇	間和した活力とにぎわいのある を推進する。

均	堺・高石ゾーン			環境創造・活性化エリア
	● 高潮対策として堤防の嵩上げ等の改良を行い防護機能を確保する。			
		•	津波対策として耐震性、耐津波性能の強化を行	い防護機能を確保する。
防	護	•	予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維	推特管理を進めるものとし、適
			切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要	要に応じて維持・修繕等を行う。
		•	高潮や津波などによる非常時の対応などソフト	面の対策強化を図る。
		•	自然環境の回復や生態系に配慮した親しみやす	い海岸づくりを進める。
環	境	•	緑豊かな公園景観と調和したアメニティ豊かな	海岸景観を創出する。
		•	地域と協力して環境維持に努める。	
• 地域の行事や活動な		•	地域の行事や活動などに利用できる海岸づくり	を進める。
#0	ш.	•	多くの人が海と親しむことのできる海岸づくり	を進める。
利	用	•	安全で快適なアクセスづくりやバリアフリー化	を推進する。
		•	海岸利用のマナー向上、ルールづくりなどを推	進する。

気候変動に関する追記

堺は	化ゾー	· >	環境創造・活性化エリア
防	護 •	ソフト対策等を組み合わせ、気候変動に対応しての強化等を図り、防護機能を確保する。 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要高潮や津波などによる非常時の水門等操作の多対策強化を図る。	特管理を進めるものとし、適切 に応じて維持・修繕等を行う。
環力	· 境 •	水質の改善や堺 2 区における人工干潟の整備、 等の生態系の回復に配慮した海辺づくりを進め 堺旧港周辺ではウォーターフロントの特性を生 ることから、これらの特性と調和のとれた豊か 地域と協力して環境維持に努める。	る。 Eかした施設整備が行われてい
利;	# ·	都市機能・港湾機能や堺旧港の歴史資源とが調利 岸づくりを進める。	ロした活力とにぎわいのある海 を推進する。

均	堺・高石ゾーン			環境創造・活性化エリア
• ソフト対策等を組み合わせ、気候変動に対応した堤防の改良等や、耐			た堤防の改良等や、耐津波性能	
			の強化等を図り、防護機能を確保する。	
防	護	•	予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持	寺管理を進めるものとし、適切
			な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要	に応じて維持・修繕等を行う。
		٠	高潮や津波などによる非常時の対応などソフト	面の対策強化を図る。
		٠	自然環境の回復や生態系に配慮した親しみやす	い海岸づくりを進める。
環	境	•	緑豊かな公園景観と調和したアメニティ豊かな	海岸景観を創出する。
		٠	地域と協力して環境維持に努める。	
		•	地域の行事や活動などに利用できる海岸づくり	を進める。
≠ ii	ш	•	多くの人が海と親しむことのできる海岸づくり	を進める。
利	用	٠	安全で快適なアクセスづくりやバリアフリー化	を推進する。
		•	海岸利用のマナー向上、ルールづくりなどを推	進する。

- 54 -

泉大津ゾーン 環境創造・活性化エリア 高潮対策として堤防の嵩上げ等の改良を行い防護機能を確保する。 津波対策として耐震性、耐津波性能の強化を行い防護機能を確保する。 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 高潮や津波などによる非常時の水門等操作の安全迅速化対応などソフト面の対策強化を図る。 環境 地域と協力して環境維持に努める。 周辺の都市機能や港湾機能との調和を図る。

	:岡:	岸和田・貝塚ゾーン	環境創造・活性化エリア	
防	護	高潮対策として堤防の嵩上げ等の改良を行い防護機能を確保する。 津波対策として耐震性、耐津波性能の強化を行い防護機能を確保する。 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う高潮や津波などによる非常時の水門等操作の安全迅速化対応などソフト面の対策強化を図る。		
環	境	地域と協力して環境維持に努める。阪南2区における人工干潟の整備など生態系の回復に配慮した海辺づくりを進める。		
利	用	• 周辺の都市機能や港湾機能との調和を図る。		

Ę	貝塚・泉佐野ゾーン 環境創造・楽しみエリア				
		•	予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な料 切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必動	CONTRACTOR OF THE PROPERTY OF	
防	護	•	人工海浜の侵食に対する長期的な保全を図る。	ON SECTION SEC	
		•	高潮や津波などによる非常時の水門等操作の多	安全迅速化対応などソフト面の	
			対策強化を図る。		
		•	人工海浜、緑地の整備により良好な環境や海岸	景観を有しており、今後とも	
	14		その保全に努める。		
環	境	•	地域と協力して環境維持に努める。		
		•	海岸愛護・ボランティア活動の支援に努める。		
利	用	•	海岸利用のマナー向上、ルールづくりなどを推	進する。	
1					

・気候変動に関する追記

身	泉大津ゾーン			環境創造・活性化エリア
防	の強化等を図り、防護機能を確保する。		ソフト対策等を組み合わせ、気候変動に対応しての強化等を図り、防護機能を確保する。 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要高潮や津波などによる非常時の水門等操作の安対策強化を図る。	寺管理を進めるものとし、適切 に応じて維持・修繕等を行う。
環境 地域と協力して環境維持に努める。				
利	用	•	周辺の都市機能や港湾機能との調和を図る。	

忠岡・岸和田・貝塚ゾーン 環境創造・活性化エリア				
ソフト対策等を組み合わせ、気候変動に対応した堤防の改良等や、耐湿の強化等を図り、防護機能を確保する。 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進めるものとな時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等高潮や津波などによる非常時の水門等操作の安全迅速化対応などソス対策強化を図る。		寺管理を進めるものとし、適切 に応じて維持・修繕等を行う。		
地域と協力して環境維持に努める。 環境 ・ 阪南 2 区における人工干潟の整備など生態系の回復に配慮した液 進める。		D回復に配慮した海辺づくりを		
利 用 ● 周辺の都市機能や港湾機能との調和を図る。				

貝塚・泉佐野ゾーン 環境創造・楽し				環境創造・楽しみエリア	
防	護	 ソフト対策等を組み合わせ、気候変動に対応した堤防の改良等や、耐津波性能の強化等を図り、防護機能を確保する。 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 人工海浜の侵食に対する長期的な保全を図る。 高潮や津波などによる非常時の水門等操作の安全迅速化対応などソフト面の対策強化を図る。 			
環	境	•	人工海浜、緑地の整備により良好な環境や海岸の保全に努める。 地域と協力して環境維持に努める。 海岸愛護・ボランティア活動の支援に努める。	景観を有しており、今後ともそ	
利	海岸利用のマナー向上 ルールづくりなどを推進する			進する。	

関西国際空港・りんくうタウンゾーン 環境創造・楽しみエリア • 高潮対策として堤防の嵩上げ等の改良を行い防護機能を確保する。 • 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適 切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 防 護 ● 水門、排水機場の老朽化対策等を進め、防護機能の強化を図る。 • 人工海浜の侵食に対する長期的な保全を図る。 • 高潮や津波などによる非常時の水門等操作の安全迅速化対応などソフト面の 対策強化を図る。 ● 緩傾斜護岸、人工海浜、シンボル緑地などの整備により、良好な水辺環境や 海岸景観を有しており今後とも保全に努める。 環 境 • 地域と協力して環境維持に努める。 • 海岸愛護、ボランティア活動の支援に努める。 • 空港島周辺の藻場造成による生態系の回復に配慮した海辺づくりを進める。 毎岸利用のマナー向上、ルールづくり、放置艇対策などを推進する。 利 用

男	男里川〜箱作ゾーン			環境保全・親しみエリア
防	高潮対策として堤防の新設や嵩上げ等の改良を行い防護機能を確保する。 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 干潟や半自然海岸の侵食に対する長期的な保全を図る。 環境や利用面に配慮した面的防護方式の施設づくりを進める。 高潮や津波などによる非常時の水門等操作の安全迅速化対応などソフト面の対策強化を図る。			
環	境	 干潟特有の多種多様な生物の生息地である貴重な河口干潟の保全に努める。 生態系や自然景観に配慮した水辺環境を創出する。 沖合に藻場があり、その保全に配慮した水辺環境づくりに努める。 地域と協力して環境維持に努める。 海岸愛護・ボランティア活動の支援に努める。 		
利	 地域の行事や活動に利用できる海岸づくりを進める。 海の体験や自然観察、環境学習などができる海岸づくりを進める。 多くの人が海辺と親しむことができるよう。安全で快適なアクセスづくりや 			

・気候変動に関する追記

ß	関西国際空港・りんくうタウンゾーン		空港・りんくうタウンゾーン	環境創造・楽しみエリア
		•	ソフト対策等を組み合わせ、気候変動に対応した	た堤防の改良等や、耐津波性能
			の強化等を図り、防護機能を確保する。	
		•	予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持	AND THE PROPERTY AND RECEIPT AND PROPERTY OF THE PROPERTY AND A STREET BOOKS.
防	護		な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要	Fig. septer 2 powered strong power popular room the country page 1969.
נשו	P.		水門、排水機場の老朽化対策等を進め、防護機	能の強化を図る。
		•	人工海浜の侵食に対する長期的な保全を図る。	
		•	高潮や津波などによる非常時の水門等操作の安	全迅速化対応などソフト面の
			対策強化を図る。	
		•	緩傾斜護岸、人工海浜、シンボル緑地などの整備	#により、良好な水辺環境や海
			岸景観を有しており今後とも保全に努める。	
環	境	•	地域と協力して環境維持に努める。	
		•	海岸愛護、ボランティア活動の支援に努める。	
		•	空港島周辺の藻場造成による生態系の回復に配	慮した海辺づくりを進める。
		•	海岸利用のマナー向上、ルールづくり、放置艇	対策などを推進する。
利用				

-	<u></u>				
男	見里川	マ箱作ゾーン 環境保全・親しみエリア			
防	 ソフト対策等を組み合わせ、気候変動に対応した堤防の改良等や、耐津波性にの強化等を図り、防護機能を確保する。 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う・干潟や半自然海岸の侵食に対する長期的な保全を図る。 環境や利用面に配慮した面的防護方式の施設づくりを進める。 高潮や津波などによる非常時の水門等操作の安全迅速化対応などソフト面の対策強化を図る。 				
生態系や自然景観に配慮した水辺環境を創出す 環境 ・ 沖合に藻場があり、その保全に配慮した水辺環境を開かる。 地域と協力して環境維持に努める。		生態系や自然景観に配慮した水辺環境を創出する。 沖合に藻場があり、その保全に配慮した水辺環境づくりに努める。 地域と協力して環境維持に努める。			
 地域の行事や活動に利用できる海岸づくりを進める。 海の体験や自然観察、環境学習などができる海岸づくりを進める 多くの人が海辺と親しむことができるよう、安全で快適なアクセバリアフリー化を進める。 		海の体験や自然観察、環境学習などができる海岸づくりを進める。 多くの人が海辺と親しむことができるよう、安全で快適なアクセスづくりや バリアフリー化を進める。 海岸でのレクリエーション利用では地域住民との調整を図るとともに、海岸利			

- 56 -

洼	柒輪·	箱	作ゾーン	環境創造・楽しみエリア
		•	高潮対策として堤防の嵩上げ等を行い防護機能	
		•	予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維	住持管理を進めるものとし、適
防	護		切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要	要に応じて維持・修繕等を行う。
		•	人工海浜の侵食に対する長期的な保全を図る。	
		•	高潮や津波などによる非常時の対応などソフト	面の対策強化を図る。
	境	•	海浜公園と一体的に整備された良好な水辺環境	意や海岸景観の維持・保全に努
環			める。	
垛	児	•	地域と協力して環境維持に努める。	
		•	海岸愛護、ボランティア活動の支援に努める。	
		•	マリンリゾートとしての総合的な海洋レクリコ	ニーション拠点であり、自然豊
利	用		かな海浜機能を維持していくため、海岸利用の	マナー向上、ルールづくり、放
			置艇対策などを推進する。	

Щ	岬ゾーン			環境保全・親しみエリア
防	■ 高潮対策として堤防の嵩上げ等の改良を行い防護機能を確保する。 ■ 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 ■ 自然海岸の侵食に対する長期的な保全を図る。 ■ 環境や利用面に配慮した面的防護方式の施設づくりを進める。 ■ 高潮や津波などによる非常時の水門等操作の安全迅速化対応などソフト面の対策強化を図る。			
環	境	• • •	貴重な自然環境や良好な環境の保全に努める。 沖合に藻場があり、その保全に配慮した水辺環 地域と協力して環境維持に努める。 海岸愛護・ボランティア活動の支援に努める。	境づくりに努める。
利	用	•	地域の行事や活動などに利用できる海岸づくり 海の体験や自然観察、環境学習などができる海 多くの人が海辺と親しむことができるよう、安 バリアフリー化を進める。 海岸でのレクリエーション利用では地域住民と 利用のマナー向上、ルールづくり、放置艇対策	岸づくりを進める。 全全で快適なアクセスづくりや この調整を図るとともに、海岸

気候変動に関する追記

涉	έ輪・	箱作ゾーン 環境創造・楽しみエリア
防	護	 ソフト対策等を組み合わせ、気候変動に対応した堤防の改良等や、耐津波性能の強化等を図り、防護機能を確保する。 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進めるものとし、適切な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修繕等を行う。 人工海浜の侵食に対する長期的な保全を図る。 高潮や津波などによる非常時の対応などソフト面の対策強化を図る。
環	境	海浜公園と一体的に整備された良好な水辺環境や海岸景観の維持・保全に努める。地域と協力して環境維持に努める。海岸愛護、ボランティア活動の支援に努める。
利	用	マリンリゾートとしての総合的な海洋レクリエーション拠点であり、自然豊かな海浜機能を維持していくため、海岸利用のマナー向上、ルールづくり、放置艇対策などを推進する。

Щ	甲ゾー	環境保全・親しみ	エリア
防	護	ソフト対策等を組み合わせ、気候変動に対応した堤防の改良等や、 の強化等を図り、防護機能を確保する。 予防保全の考え方に基づき計画的、効率的な維持管理を進めるもの な時期に海岸保全施設の老朽度を点検し、必要に応じて維持・修縦 自然海岸の侵食に対する長期的な保全を図る。 環境や利用面に配慮した面的防護方式の施設づくりを進める。	とし、適切
		高潮や津波などによる非常時の水門等操作の安全迅速化対応など 対策強化を図る。	ソフト面の
環	境	貴重な自然環境や良好な環境の保全に努める。 沖合に藻場があり、その保全に配慮した水辺環境づくりに努める。 地域と協力して環境維持に努める。 海岸愛護・ボランティア活動の支援に努める。	
利	用	地域の行事や活動などに利用できる海岸づくりを進める。 海の体験や自然観察、環境学習などができる海岸づくりを進める。 多くの人が海辺と親しむことができるよう、安全で快適なアクセ バリアフリー化を進める。 海岸でのレクリエーション利用では地域住民との調整を図るとと 利用のマナー向上、ルールづくり、放置艇対策などを推進する。	スづくりや

- 57 -

以上が「第1編 海岸の保全に関する基本的な事項」であるが、施策については、ソフト対

第1編における施策の分担例や第2編との関係について、参考として以下に示す。

策も含め、広く示している。

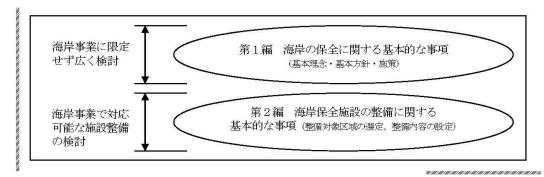
【参考】

海岸管理者が直接対応できる項目については先に示した施策に基づき進めていくが、直接対応できない項目については、他の事業者との調整を図るとともに、地域住民との連携を図り、 実現に向けて努めていく。

参考表	施策の	分類と	役割分担例

		5表 施策の分類と役割分担10	71]
区分	海岸管理者が 実施する施策	海岸管理者と地元自治体や関 係行政機関が連携・協力して実 施する施策	住民や NPO の主体的・自発的 な取り組みを喚起する施策
防護	・安全な施設づくり (高潮・侵食・津波) ・耐震性の強化 ・集中管理システム化 ・施設の老朽化対策 ・施設の維持管理(補修等)	・緊急時の情報収集・発信の体制づくり・緊急時の避難訓練等・施設の維持管理(陸閘の定期点検等)・防災意識の啓発	・地域における自主防災組織 づくり ・防災訓練 ・日常からの避難地や避難路 の確認
環境	・生態系や水質浄化などの環境に配慮した施設づくり ・景観に配慮した施設づくり	・ごみ対策(啓発活動、看板の設置、流域の発生対策)・環境教育(青少年の体験学習の実施)・貴重な生態系や植生に関する情報提供等・美化活動などへの支援	・ごみの清掃活動等 ・モラルの向上 ・海岸愛護意識の高揚 ・施設の適正な使用
利用	・施設のバリアフリー化 ・利便施設の設置(区域内) (駐車場、トイレ等)	・海岸利用のマナー向上 ・海岸利用のルールづくり ・案内看板 ・環境・道路情報の伝達 ・施設の P. R 等 ・体験学習の実施 ・アクセスルートの整備 ・利便施設の設置(区域外) (駐車場等) ・プレジャーボートの適正利用 対策	・釣り・マリンスポーツ等海 岸利用上のモラルの向上 ・施設の適正な使用

「第2編 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項」では、整備の対象とする区域を選定し、「第1編 海岸の保全に関する基本的な事項」において設定した基本理念、基本方針、施策に基づき、海岸管理者が直接対応する整備の内容と整備を進める際の配慮事項を示す。



• 変更なし

以上が「第1編 海岸の保全に関する基本的な事項」であるが、施策については、ソフト対策も含め、広く示している。

第1編における施策の分担例や第2編との関係について、参考として以下に示す。

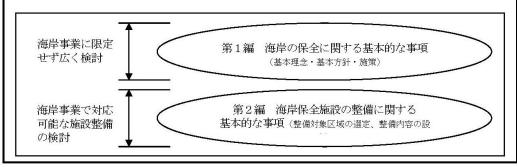
【参考】

海岸管理者が直接対応できる項目については先に示した施策に基づき進めていくが、直接対応できない項目については、他の事業者との調整を図るとともに、地域住民との連携を図り、 実現に向けて努めていく。

参考表 施策の分類と役割分担例

区分	海岸管理者が 実施する施策	海岸管理者と地元自治体や関 係行政機関が連携・協力して実 施する施策	住民や NPO の主体的・自発的 な取り組みを喚起する施策
防護	・安全な施設づくり (高潮・侵食・津波) ・耐震性の強化 ・集中管理システム化 ・施設の老朽化対策 ・施設の維持管理(補修等)	・緊急時の情報収集・発信の体制づくり・緊急時の避難訓練等・施設の維持管理(陸閘の定期点検等)・防災意識の啓発	・地域における自主防災組織づくり・防災訓練・日常からの避難地や避難路の確認
環境	・生態系や水質浄化などの環境に配慮した施設づくり ・景観に配慮した施設づくり	 ごみ対策(啓発活動、看板の設置、流域の発生対策) 環境教育(青少年の体験学習の実施) 貴重な生態系や植生に関する情報提供等 美化活動などへの支援 	・ごみの清掃活動等 ・モラルの向上 ・海岸愛護意識の高揚 ・施設の適正な使用
利用	・施設のバリアフリー化 ・利便施設の設置(区域内) (駐車場、トイレ等)	・海岸利用のマナー向上 ・海岸利用のルールづくり ・案内看板 ・環境・道路情報の伝達 ・施設の P. R 等 ・体験学習の実施 ・アクセスルートの整備 ・利便施設の設置(区域外) (駐車場等) ・プレジャーボートの適正利用 対策	・釣り・マリンスポーツ等海 岸利用上のモラルの向上 ・施設の適正な使用

「第2編 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項」では、整備の対象とする区域を選定し、「第1編 海岸の保全に関する基本的な事項」において設定した基本理念、基本方針、施策に基づき、海岸管理者が直接対応する整備の内容と整備を進める際の配慮事項を示す。



- 59 -

現行基本計画記載内容 変更記載内容(案)

気候変動に関する追記

第2編 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項

- 1. 海岸保全施設の新設又は改良に関する事項
- 1-1 海岸保全施設を新設又は改良しようとする区域

1-1-1 整備対象区域の選定方針

海岸保全施設の整備対象区域は、「第1編2-1海岸の防護の目標」で定めた防護すべき地域(海岸保全施設が整備されない場合に、防護水準として設定した高潮、津波による浸水や現在進行中の侵食により、海岸背後の宅地や農地等に対して被害の発生が想定される地域)のうち、現時点で「高潮、津波、侵食等に対する防護の必要性がある区域」とする。

ここで「高潮、津波、侵食等に対する防護の必要性がある区域」とは、海岸保全施設が未整備の箇所、経年的な沈下の影響などにともなう天端高不足や老朽化等により現時点で海岸保全施設が所要の機能を確保できていない箇所、地震による地盤の液状化に伴う沈下の恐れがあり天端高を維持する対策が必要な箇所、耐震性の強化や遠隔操作化にともなう水門等の整備など海岸保全施設の高度化が必要な箇所、侵食対策が必要な箇所、近年の台風等を踏まえて見直した高潮に対して必要となる施設の天端高が不足する箇所について、海岸区分に加えゾーン区分や整備内容の類似性等を考慮して設定した区域とする。

1-1-2 整備対象区域の選定

「1-1-1 整備対象区域の選定方針」に基づき、整備対象区域として 74 区域を選定した。

それぞれの区域について、選定の理由となった防護の必要性、現在の整備状況(整備の継続状況)を表 2.1.1 に示す。

第2編 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項

- 1. 海岸保全施設の新設又は改良に関する事項
- 1-1 海岸保全施設を新設又は改良しようとする区域

海岸保全施設の整備対象区域は、「第1編2-1海岸の防護の目標」で定めた防護すべき地域(海岸保全施設が整備されない場合に、防護水準として設定した高潮、津波による浸水や現在進行中の侵食により、海岸背後の宅地や農地等に対して被害の発生が想定される地域)のうち、「高潮、津波、侵食等に対する防護の必要性がある区域」とする。

ここで「高潮、津波、侵食等に対する防護の必要性がある区域」とは、海岸保全施設が未整備の箇所、経年的な沈下の影響などにともなう天端高不足や老朽化等により現時点で海岸保全施設が所要の機能を確保できていない箇所、地震による地盤の液状化に伴う沈下の恐れがあり天端高を維持する対策が必要な箇所、耐震性の強化や遠隔操作化にともなう水門等の整備など海岸保全施設の高度化が必要な箇所、侵食対策が必要な箇所、近年の台風、気候変動による平均海面水位の上昇や台風の強大化等を踏まえて見直した高潮・津波に対して必要となる施設の天端高が不足する箇所について、海岸区分に加えゾーン区分や整備内容の類似性等を考慮して設定した区域とする。

- 59 -

添付表として統合(P89~P94参照)

現行計画 P60~P65

表 2.1.1 大阪湾沿岸における新設又は改良の整備対象区域 (1/6)

ゾーン名	エリア 特性	番号	海岸名	区域名	防護の必要性	整備の 状況
	環境創造	1	東播	舞子	・海岸保全施設が整備されていな い区域	整備中
垂水	・楽しみ エリア	2	東播	塩屋	・海岸保全施設が整備されていない区域・侵食対策	整備中
須磨	環境創造 ・楽しみ エリア	3	神戸港	須磨	・津波に対する耐震性、耐津波性 能等の向上・侵食対策・海岸保全施設の老朽化	整備中
		4	神戸港	駒ヶ林 (長田港)	・海岸保全施設の老朽化	整備中
		5	神戸港	苅藻島	・海岸保全施設の老朽化	整備中
	環境創造	6	神戸港	苅藻運河	・海岸保全施設の老朽化	整備中
長田・兵庫	活性化エリア	7	神戸港	兵庫・ 新川運河 (兵庫運 河)	・津波に対する耐震性、耐津波性 能等の向上 ・海岸保全施設の老朽化	整備中
		8	神戸港	吉田町	・津波に対する耐震性、耐津波性 能等の向上 ・海岸保全施設の老朽化	整備中
		9	神戸港	和田岬· 遠矢浜 (遠矢浜)	・津波に対する耐震性、耐津波性 能等の向上 ・海岸保全施設の老朽化	整備中
		10	神戸港	和田岬· 遠矢浜 (和田岬)	・津波に対する耐震性、耐津波性 能等の向上 ・海岸保全施設の老朽化	整備中
	環境創造 ・活性化 エリア	11	神戸港	中之島	・津波に対する耐震性、耐津波性 能等の向上・海岸保全施設の老朽化	整備中
		12	神戸港	島上	・海岸保全施設の老朽化	整備中
中央		13	神戸港	東出町	・津波に対する耐震性、耐津波性 能等の向上 ・海岸保全施設の老朽化	整備中
		14	神戸港	蟹川	・津波に対する耐震性、耐津波性 能等の向上・海岸保全施設の老朽化	整備中
		15	神戸港	新港	・津波に対する耐震性、耐津波性 能等の向上・海岸保全施設の老朽化	整備中
		16	神戸港	葺合	・津波に対する耐震性、耐津波性 能等の向上・海岸保全施設の老朽化	整備中

現行基本計画記載内容 変更記載内容(案)

1-2. 海岸保全施設の種類、規模及び配置等

1-2-1 海岸保全施設の計画諸元

整備対象として設定した区域について、新設又は改良する海岸保全施設の計画諸元 (代表堤防高・延長) を表 2.1.3 の整備箇所整理表にまとめる。

代表堤防高は、高潮・波浪に対して必要となる高さと、津波に対して必要となる高 さを比較して、高い方の値を用いて設定する。

個々に高潮・波浪に対して必要な高さは、第1編の防護水準(表 1.2.1)に示した、 設計高潮位に設計波に対して必要な高さ及び余裕高を加えたものとして、自然条件、 堤防の形状、消波工及び離岸堤等の効果、越波許容程度等を考慮して決定したもので ある。津波に対して必要な高さは、第1編の防護水準(表 1.2.2)に示した設計津波の 水位を下回らない高さである。

また、延長については、「1-1-1 整備対象区域の選定方針」で定めた「高潮、津波、 侵食等に対する防護の必要性がある区域」について、施設の整備状況を考慮して決定 したものである。

1-2-2 海岸保全施設の整備内容

これまでの検討を踏まえ、整備対象として設定した区域における新設又は改良する 海岸保全施設の整備内容を表 2.1.3 の整備箇所整理表にまとめる。表 2.1.3 への記載 事項は、表 2.1.2 に示すとおりである。

3	以 2.1.2 正 品 目 / 1 正 工 以 化 数 字 头
記載事項	記載內容
配置	区域:海岸保全施設の新設又は改良に関する工事を施行 しようとする区域 規模:海岸保全施設の延長
主な施設の種類	整備する主要な海岸保全施設の種類
整備の概要	海岸保全施設の整備の必要性および整備計画の概要
配慮事項	海岸を整備するうえでの環境、利用面に対する配慮事項

表 2.1.2 整備箇所整理表への記載事項

1-2-1 海岸保全施設による受益の地域及びその状況

新設又は改良する海岸保全施設の整備によって高潮、津波による被害や海岸侵食から防護される地域及びその地域の土地利用の状況について表 2.1.3 の整備箇所整理表に示す。

- 66 -

・気候変動に関する追記

1-2. 海岸保全施設の種類、規模及び配置等

1-2-1 海岸保全施設の計画諸元

整備対象として設定した区域について、新設又は改良する海岸保全施設の計画諸元 (代表堤防高・延長)を添付表の整備箇所整理表にまとめる。

代表堤防高は、気候変動に関する現時点の最新の知見を基に、気候変動シナリオと して 2℃上昇シナリオを想定し、2100 年時点を想定年次として、高潮・波浪に対して 必要となる高さと、津波に対して必要となる高さを比較して、高い方の値に余裕高を 加えて設定する。

個々に高潮・波浪に対して必要な高さは、第1編の防護水準(表1.2.2)に示した潮位・波浪に対して、離岸堤等の効果、越波許容程度等を考慮して決定したものである。なお、港外の海岸保全施設については、消波ブロック被覆があるものとして必要天端高を算定した。また、養浜等の複合断面を考慮せずに必要天端高を算出したものであり、実施設計にあたっては、各施設において対策案を検討し、整備水準(天端高)を決定する。

津波に対して必要な高さは、第1編の防護水準(表1.2.2)に示した設計津波の水位を下回らない高さである。

延長については、「1-1海岸保全施設を新設又は改良しようとする区域」で定めた「高潮、津波、侵食等に対する防護の必要性がある区域」について、施設の整備状況を考慮して決定したものである。

1-2-2 海岸保全施設の整備内容

配慮事項

これまでの検討を踏まえ、整備対象として設定した区域における新設又は改良する 海岸保全施設の整備内容を<mark>添付表</mark>の整備箇所整理表にまとめる。<mark>添付表</mark>への記載事項 は、表 2.1.2 に示すとおりである。

計画値としては、気候変動を踏まえた 2100 年時点の 2℃上昇シナリオにて設定するが、確信度の高い予測結果をもとに、ソフト対策も組み合わせながら多段的な対策を行うことも検討する。

 記載事項
 記載内容

 区域:海岸保全施設の新設又は改良に関する工事を施行しようとする区域規模:海岸保全施設の延長主な施設の種類

 整備する主要な海岸保全施設の種類

 整備の概要
 海岸保全施設の整備の必要性および整備計画の概要

海岸を整備するうえでの環境、利用面に対する配慮事項

表 2.1.2 整備箇所整理表への記載事項

- 61 -

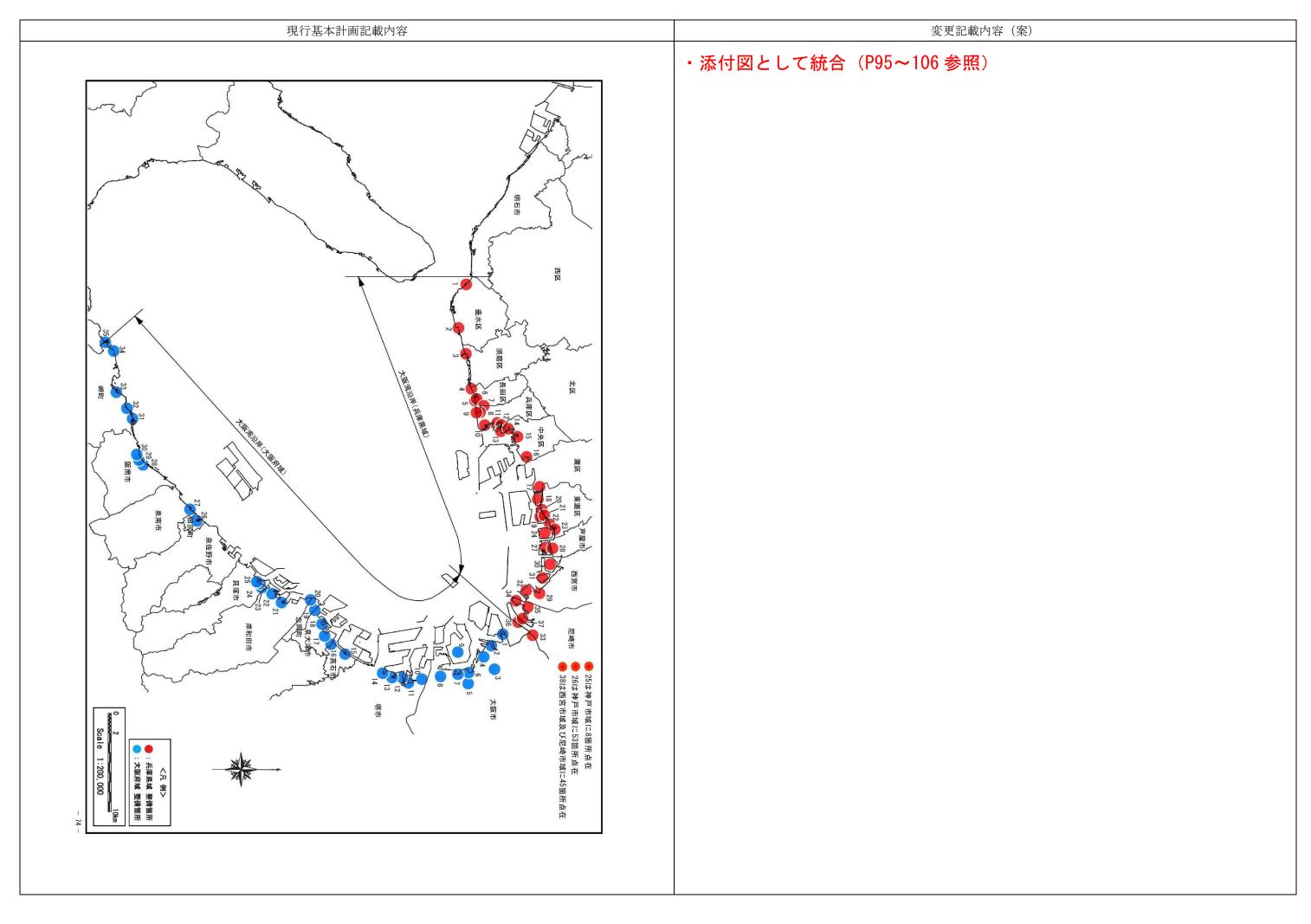
現行基本計画記載内容	変更記載内容(案)
	・受益範囲の考え方を追記
	1-2-3 海岸保全施設による受益の地域及びその状況 新設又は改良する海岸保全施設の整備によって高潮、津波による被害や海岸侵食から防護される地域及びその地域の土地利用の状況について添付表に示す。また、添付図に、本計画の海岸保全施設が無い場合に浸水が想定される地域として、以下の地域を示す。 ① 浸水地域が海岸線から 1km 以内: 地盤高が計画高潮位+1/2 計画波高② 浸水地域が海岸線から 1km 以違: 地盤高が計画高潮位
	- 62 -

変更記載内容(案)

・口銘的に無と使しむことができる海岸づくり の海岸づくり ・都市・産業機能との調和	・周辺原境と調和した海岸景観の 保全・創造	をありたり代介すり、下の末年の表示がら適切が大力等を行う。 から適切が大力等を行う。 内水排除対策と整合のともた防護機能を確停する。	西葉業務地 工業地	职上里	T. P. +3. 30	731m	\$PP	胸壁	12	華 戸森		
・日常的に海と親しむことができる海岸づくり る海岸づくり ・都市・産業機能との調和	・周辺環境と調和した海岸景観の 保全・創造	施設の表別に伴い、子房保全の製点から適切な改良等を行う。また、津波に 対する房保の創設性、耐津液性影響の設 化を行う。 円水排除対策と整合のとれた防護機能 を確保する。	远荆茉 江茉 王茉	日心即	T. P. +2. 80 ~2. 90	443m	中之脏	報 事	E	華 戸森	環境無済 ・活住化 エリア	中净
・産業機能との調和	・周辺景観との調和	施設の老朽化に伴い、予防保全の観点から適切な改良等を行う。また、津波にかける及野の耐震性、耐津波性能等の強化を行う。	开 张 亲 亲	遠矢浜町 ~ 今出在家町	I.P.+2.80 ~7.90	6, 291m	和田卓· 造朱溪 (和田卓)	國語 野 安 安	10	神) 液		
・産業・港湾機能との調和	・周辺景観との調和	施設の老朽化に伴い、予防保全の観点から適切な改良等を行う。また、神波に から適切な改良等を行う。また、神波に 対する堤防等の耐震性、耐神液性能等の 強化を行う。	工業地	遠矢浜町	T. P. +2. 80 ~7. 90	6, 291m	杏田昌· 遠矢浜 (康矢浜	以學典別	9	神戸港		
・産業機能との調和	・周辺景観との調和	施設の老村化に作い、予別保全の概点から適切な改良等を行う。また、津波にかける地防災の耐燥性、耐性液性能等の強化を等の強化を行う。	1. 業 造	吉田町	T. P. +2. 80 ~5.40	1,746m	古田町	早識的防守壁	œ	举 戸		
・日常的に海と親しむことができる海にろへり る海にろへり ・都市・産業・港湾機能との調和	・周辺景観との調和 ・兵庫運河について、環境の回復 ・育成などの創出に配慮	施設の老朽化に伴い、予防保全の観点から適切な改良等を行う。また、津波にから適切な改良等を行う。また、津波に対する護岸等の耐震性、耐津液性能等の強化を行う。	在 在 是 是 是	洪中町 ~ 適感水町	T. P. +2. 80 ~3. 60	6,030m	兵庫· 第川連河 (兵庫連 河)	搬電車車	7	至山藤	・活性化エリア	A 東 東
・ワクリエーションを楽しむこと のできる海岸るへり ・境業・装済級語との週旬	・周辺景観との調和	施設の老朽化に伴い、予防保全の観点 から適切な改良等を行う。	工業 選	浜統通	T. P. +2. 80 ~3. 20	520m	苅薬運河	接着	6	神戸継	操返創造	tr. ∄ •
・レクリエーションを楽しむこ のできる海岸-3/へり ・産業・港湾機能との調和	・周辺景観との調和	施設の老朽化に作い、予防保全の構点 から適切な改良等を行う。	川 業憲	対機能 国	I.P.+2.80 ~7.60	2, 817m	进 練 記	吳 護 胸 消防 计 肆 政	ଧ	神) 孫		
・レクリエーションを楽しむこと のできる海岸づくり ・産業・港湾機能との調和	・周辺景観との調和	施設の老杉化に伴い、予助保全の概点 から適切な改良等を行う。	工業地	動ヶ林市町。 ~ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	T.P.+3.40 ~7.60	5, 795m	関ケ丼 (長田港)	界護消費的 建苯胺基	4	神戸港		
・地域の行事や活動などに利用できる海岸づくり きる海岸づくり ・安全で快適なアクセス路の確保・造域漁業機能との調削	・自然環境の保全 ・砂浜など良好な海岸景観の保 全・創造	表演等により面的な防護機能を確保するとともに、親本性の向上を図る。また、 施設の老朽化に伴い、予防保全の観点から、適切な改良学を行う。	住宅鬼	西須野人	T. P. +4. 10 ∼7. 60	9, 175m	通路	離岸突養護雄坊場場場所以最近的場場。	w	神戸継	環境創造 ・楽しみ エリア	海路
・地域の行事や活動などに利用できる海岸づくりきる海岸づくりませて快適なアクセス路の確保・独全で快適なアクセス路の確保・漁港機能との調用	・薬場や海浜植物など貴重な自然 環境の保仓・砂浜など良好な海岸景観の保 全・創造	蘇岸県による向的な別議機能を確保するとともに、親水性の向上を図る。	在 特 李 美	西国国	I. P. +5. 80 ~6. 00	on ∯#	節	離岸場	ĸ	港	五月子	Time
・地域の行事や活動などに利用できる海岸づくりきる海岸づくり ・安全で快適なアクセス路の確保・漁港機能との調和	・ 黨場や施浜植物など費重な自然 環境の保全 ・ 砂浜など良好な海岸景観の保 全・創造	護岸整備により防護機能を確保する。	住宅地	四架子 ~ 那子台	T. P. +5. 80 ~6. 00	130m	港 子	漏	ш	声兹	操返創造	# *
利用面に対する配慮事項	環境面に対する配慮事項	機論の黄炯	英治	菩藝	模 代表堤防高 (n)	延長	阿	主な施設 の種類	区箱波号	海岸名	エリア特性	ゾーン名
事項	起源		通 迎	対自の		曹			8			

- 添付表として統合 (P89~P94 参照)

現行計画 P67~P73



現行基本計画記載内容 変更記載内容(案)

2. 海岸保全施設の維持又は修繕に関する事項

2-1 海岸保全施設の存する区域

維持又は修繕の対象となる海岸保全施設が存する区域を表 2.2.1 に示す。

2-2 海岸保全施設の種類、規模及び配置

維持又は修繕の対象となる海岸保全施設が存する区域毎に存する海岸保全施設の種類、規模及び配置を表 2.2.1 に示す。

2-3 海岸保全施設の維持又は修繕の方法

海岸保全施設の維持又は修繕の方法については、目視による日常巡視を実施し、適切な時期に調査・点検を行い長寿命化計画を作成し、予防保全の考え方に基づいた計画的かつ効率的な海岸保全施設の維持・管理を進める。

維持・修繕の方法は、対象施設の変状の種類や程度を踏まえつつ、新技術・新工法の適用性も検討し、ライフサイクルコストの観点も踏まえた最適な方法を採用するものとする。

- 図表の参照を更新

2. 海岸保全施設の維持又は修繕に関する事項

2-1 海岸保全施設の存する区域

維持又は修繕の対象となる海岸保全施設が存する区域を添付表・添付図に示す。

2-2 海岸保全施設の種類、規模及び配置

維持又は修繕の対象となる海岸保全施設が存する区域毎に存する海岸保全施設の種類、規模及び配置を<mark>添付表・添付図</mark>に示す。

2-3 海岸保全施設の維持又は修繕の方法

海岸保全施設の維持又は修繕の方法については、目視による日常巡視を実施し、適切な時期に調査・点検を行い長寿命化計画を作成し、予防保全の考え方に基づいた計画的かつ効率的な海岸保全施設の維持・管理を進める。

維持・修繕の方法は、対象施設の変状の種類や程度を踏まえつつ、新技術・新工法の 適用性も検討し、ライフサイクルコストの観点も踏まえた最適な方法を採用するもの とする。

海岸保全施設の維持又は修繕の方法を添付表に示す。

現行基本計画記載内容	変更記載内容(案)

00000	G: ;	S	91	環境創造 垂水 ・楽しみ 4 エリア	ω	2	1	************************************	
● 神 照 報 業 業	鱼玩漁港		東	垂水漁港	河部	4年一年 10年 10年 10年 10年 10年 10年 10年 10年 10年 10	東語	新設 海岸(○)	
崎 翔	Ţ		塩屋東垂水	Ţ	西垂水舞子	ĵ	本	海岸保全施設の 存する区域 存する区域 地区海岸名	
200	悲我福門 宇国客屋	助	機 器 计 以 因 对 以 足 以 足 足 可 以 足 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以	防潮堤 鉄扉 角落)	排 安 华 雅 雅 安 华 斯 斯 斯 斯 斯 斯 斯 斯 斯 斯 斯 斯 斯 斯 斯 斯 斯 斯	護岸 防砂堤 消液・根固 循管 阻原	被 學文學 學科斯 學 學 學 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內	種類、種類、	
186m 2 其(390m)	134m 40m 3 基 1 基	145m 211m 2基(146m) 1基(80m) 64m 5基 1基 1基	1,931m 3 集 (375m) 307m 3 基 2 集	765m 1	2.066m 9基(461m) 2.基(312m) 3基(242m) 170m 29m 1 基 502m	103m 9基 (233m) 255m 4基 3基	1,050m 1 越 (44m) 1 基 (133m) 475m 6 基 3 共	海岸保全施設の 規模・配置等 (現況) 延長等 現2	表 2.2.1 維持
	T. P. +5. 80	T. P. +4. 95 ∼5. 80	T. P. +5. 80	T. P. +6. 00	T.P. 3.60 ∼7.20	T. P. +5. 80	T. P. +5. 80	現況) 現況の堤防高 (m)	維持又は修繕箇所整理表
類公 非 非	崇離牧福門 忠見 明祖 明祖	- 思想兴粹 的声堪流根陽門教 的声堪處 国谷犀犀花 一	崇離 表別 以以 以以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以	防瀬堤 鉄犀 角落円	被突 離 排 球 的 原	護門 防砂堤 防砂堤 油海 · 根固 阻解	據宋 離 孫子離 時 時 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	種類、種類、	哩表(1/9)
186m 2 其 (390m)	134m 5 集 10m 3 基 1 基	145m 211m 21k (146m) 1基(80m) 64m 5 基 1 基 1 基 4 基	1,931m 3 其 (375m) 307m 3 基 2 其	765m 1	2,066m 9 基 (461m) 9 基 (312m) 3 基 (242m) 170m 20m 1 基 502m	403m 9 <u>基</u> (233m) 255m 4 基 3 基	1,180m 1基(44m) 1基(133m) 475m 6基 3 共	海岸保全施設の 規模・配置等 延長等	
T P +4 10	T. P. +5. 80 ~6.00	T.P.+4.95 ~5.80	T. P. +5, 80	T. P. +6. 00	T. P. 13, 60 ∼7. 20	T. P. +5, 80	T.P. 15.80	(計画) (計画) 代表堤防高 (m)	
	日常巡視及び5年に1回程度の定期点検を実施し、 適切な推择・修繕を行う。施設及び施設を執作す 適切な推择・修繕を行う。施設及び施設を執作す るために必要な機械、器具等を良好な状態に保つ よう、定期的(月、中等)に点検・整備を行う。	日常巡視及び5年に1回程度の定期点額を実施し、 適切な滞棒・修繕を行う。施設及び施設を操作す。 高切な滞棒・修繕を行う。 高ために必要な機械、器具等を良好な状態に限つ よう、定期的(H、年等)に点徴・整備を行う。	日常巡視及び5年に1回程度の定期点検を実施し、 適切な維持・修籍を行う。施設及び施設を操作す るために必要な機械、器具等を良好な状態に保つ よう、定期的(月、年等)に点検・整備を行う。	日常巡視及び5年に1回程度の定期点赦を実施し、 適助な維持・標確を行う。施設及び施設を操作す。 適助な維持・標確を行う。施設及び施設を操作す。 るために必要な機械、ಪ見等を良好な失概に保つ よう、定期的(月、年等)に点検・整備を行う。	日常巡視及び5年に1回程度の定期点検を実施し、 適切な維持・修辯を行う。	日常巡視及び5年に1回程度の定期点検さ実権1、 適切な維持・修締を行う。施設及び施設を操作す るために必要な機械、器具等を良好な状態に発つ よう、定期的(月、年等)に点検・弊備を行う。	日常深視及び5年に1回程度の定期点療や実施し、 適別な維持・修繕を行う。施設及び施設を操作す 名だめに必要な機械、器具等を良好な状態に保つ よう、定期的(月、年等)に点策・整備を行う。	維持又は修繕の方法	

添付表として統合(P89~P94参照)

現行計画 P76~P84

現行基本計画記載内容 変更記載内容(案)

第3編 今後の取り組みにあたっての留意事項

(1) 今後の調査研究

技術の進歩により明らかになっている新しい知見、技術について、最新の成果を導入できるよう調査・研究およびその体制づくりを検討していくことが重要であり、以下の点に留意する。

- ① 多様な生物の生息空間の創出や水質改善など、環境の改善に効果のある海岸保全施設の整備や、自然エネルギーの活用、アマモ場の防護効果などの調査・研究について、専門の研究機関や学識経験者との連携を図りながら進める。
- ② 藻場・砂浜等の変化の把握、多様な生物及び生態系の実態調査等の環境調査、各種文化財や歴史的資源等の調査・研究について、他の関係機関との連携により、情報の共有化および調査の充実を図る。
- ③ 地球温暖化にともなう気象・海象の変化や、長期的な海水面の上昇が懸念される ため、今後の調査研究の進展などについての情報収集に努める。
- ④ 高度成長期等に集中的に整備された海岸保全施設の老朽化への対応のため、費用 の軽減や平準化を図りつつ所定の機能を確保するために、適切な維持及び修繕に 関する最新の調査研究などについての情報収集に努める。

なお、今後の調査研究の進展にあわせ、環境面や利用面で配慮すべき目標値などに ついても検討していく。

(2) 地域住民等の参画と情報公開

大阪湾沿岸の海岸保全施設については、ほとんどの区間で整備が完了しているが、一部に未整備区間や改良等が必要な区間が残されている。また、環境面や利用面についても課題が残されており、「人も自然も元気でにぎわう」海岸を目指して、今後も海岸整備を推進する必要がある。

今後、防護、環境保全、利用促進のバランスがとれた事業を実施していくためには、海岸に関する情報について広く地域住民への公開に努め、事業の透明性の向上を図っていくとともに、計画の策定や事業の実施段階において、地域住民や漁業関係者、海岸づくりの調査、研究を進めている市民団体、NPO、ボランティアなど海岸に関わる多方面の関係者の積極的な参画を得る必要がある。

情報公開については、海岸の状況や計画の実現によりもたらされる防護、環境及び利用に関する状況などのほか、日常的な海岸利用の安全に関する情報についても、同様に広く地域住民への公開に努めていくものとする。なお、情報公開の方法としては、広報紙、ホームページ、パンフレット等により行うものとし、地域住民のみならず来訪者、

・気候変動に関する追記

第3編 今後の取り組みにあたっての留意事項

(1) 定期的なモニタリングと今後の調査研究

関係機関と連携した気候変動による気象・海象や環境の変化に関するモニタリングや、技術の進歩により明らかになっている新しい知見、技術について、最新の成果を導入できるよう調査・研究およびその体制づくりを検討していくことが重要であり、以下の点に留意する。

- ① 多様な生物の生息空間の創出や水質改善など、環境の改善に効果のある海岸保全施設の整備や、自然エネルギーの活用、アマモ場の防護効果などの調査・研究について、専門の研究機関や学識経験者との連携を図りながら進める。
- ② 関係機関によるモニタリング等の情報を収集し、気候変動等に伴う藻場、砂浜等の変化を把握する。また、多様な生物及び生態系の実態調査等の環境調査、各種文化財や歴史的資源等の調査・研究について、他の関係機関との連携により、情報の共有化および調査の充実を図る。
- ③ <mark>気候変動</mark>にともなう気象・海象の変化や、長期的な海水面の上昇が懸念されるため、今後の調査研究の進展などについての情報収集に努める。
- ④ 高度成長期等に集中的に整備された海岸保全施設の老朽化への対応のため、費用 の軽減や平準化を図りつつ所定の機能を確保するために、適切な維持及び修繕に 関する最新の調査研究などについての情報収集に努める。

なお、今後の調査研究の進展にあわせ、環境面や利用面で配慮すべき目標値などについても検討していく。

(2) 地域住民等の参画と情報公開

大阪湾沿岸の海岸保全施設については、ほとんどの区間で整備が完了しているが、一部に未整備区間や改良等が必要な区間が残されている。また、環境面や利用面についても課題が残されており、「人も自然も元気でにぎわう」海岸を目指して、今後も海岸整備を推進する必要がある。

今後、防護、環境保全、利用促進のバランスがとれた事業を実施していくためには、海岸に関する情報について広く地域住民への公開に努め、事業の透明性の向上を図っていくとともに、計画の策定や事業の実施段階において、地域住民や漁業関係者、海岸づくりの調査、研究を進めている市民団体、NPO、ボランティアなど海岸に関わる多方面の関係者の積極的な参画を得る必要がある。

情報公開については、海岸の状況や計画の実現によりもたらされる防護、環境及び利用に関する状況などのほか、日常的な海岸利用の安全に関する情報についても、同様に

- 64 -